

会 告 目 次

坂井記念特別賞候補者の募集について	色紙
研究発表会開催通知	2
第52回ヒューマンインタフェース研究会	2
第14回情報メディア研究会	3
第74回記号処理研究会	3
第47回情報システム研究会	4
第92回人工知能研究会	4
第87回コンピュータビジョン研究会	5
第96回ソフトウェア工学研究会	5
第15回プログラミング—言語・基礎・実践—研究会	7
第99回自然言語処理研究会	8
第31回コンピュータと教育研究会	9
第37回アルゴリズム研究会	10
第63回マルチメディア通信と分散処理研究会	} 合同研究会
第5回グループウェア研究会	
第96回計算機アーキテクチャ研究会	} 合同研究会
第62回システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会	
第21回人文科学とコンピュータ研究会	12
平成6年度研究会について	15
「音声言語情報処理研究会」発足のお知らせ	16
アルゴリズム研究会小規模国際会議論文募集	17
ソフトウェア工学研究会小規模国際会議論文募集	18
第46回全国大会奨励賞の表彰	19
第48回全国大会予約案内	21
「1994年情報学シンポジウム」開催について	23
第5回「連続セミナー93」の開催について	26
チュートリアル「ビジネスプロセス・リエンジニアリングとソフトウェア技術」開催について	27
「超編集・超流通・超管理のアーキテクチャ」シンポジウム開催について	29
「ソフトウェアプロセス・シンポジウム」論文募集	31
論文賞候補の論文推薦のお願い	32
情報処理学会論文誌「グループウェア」特集号への論文投稿のご案内	32
情報処理学会論文誌別刷価格の改訂について	33
平成5年度会費、論文誌購読費の納入について	33
書評・ニュース募集のお知らせ	34
第23回国際会議のための準備セミナー	35
本会協賛等の行事案内	36
シンポジウム、講習会、全国大会、学会誌、論文誌の残部購入について	36
支部だより	37
教官募集	38
会議案内	38
編集室	39
平成5年度役員	40

研究発表会開催通知

(平成5年12月15日～平成6年1月31日)

研究会名	日時		会場	備考
グラフィクスとCAD	12月16日(木) 12月17日(金)	9:00～17:00 9:00～17:00	九大	前号参照
計算機アーキテクチャ 設計自動化】合同	12月16日(木) 12月17日(金)	10:00～17:00 10:00～17:00	豊橋アイエスコア	同上
ヒューマンインタフェース	1月13日(木)	13:30～17:10	東芝(川崎)	下記参照
情報メディア	1月14日(金)	9:00～17:00	NEC(本社)	同上
記号処理	1月14日(金)	13:00～17:00	工学院大	同上
情報システム	1月18日(火)	13:00～17:30	同上	同上
人工知能	1月19日(水)	9:40～17:00	神戸大	同上
コンピュータビジョン	1月20日(木)	9:00～15:30	阪大	同上
*ソフトウェア工学	1月20日(木) 1月21日(金)	8:50～17:30 9:00～17:30	鹿児島大	同上
*プログラミング -言語・基礎・実践-	1月20日(木) 1月21日(金)	8:50～17:30 13:00～14:00	同上	同上
自然言語処理	1月20日(木) 1月21日(金)	13:00～17:10 10:00～15:40	阪大	同上
コンピュータと教育	1月21日(金)	13:00～16:40	工学院大	同上
アルゴリズム	1月25日(火)	13:00～15:20	日立(中研)	同上
マルチメディア通信と分散処理 グループウェア】合同	1月27日(木) 1月28日(金)	10:20～16:55 10:20～17:10	NTT(横須賀)	同上
計算機アーキテクチャ システムソフトウェアと オペレーティング・システム】合同	1月27日(木) 1月28日(金)	13:30～17:00 9:00～15:30	ホテル城戸口屋 (山形)	同上
人文科学とコンピュータ	1月28日(金)	10:00～17:20	鹿児島大	同上

*研究会同時開催

◆第52回 ヒューマンインタフェース研究会

(発表件数:5件)

(主査:安西祐一郎, 幹事:井関 治, 小川克彦, 来住伸子)

日時 平成6年1月13日(木) 13:30～17:10

会場 東芝 研究開発センタ 東芝科学館 ABホール

[川崎市幸区小向東芝町 1, JR:川崎(東口)下車, 東急バス(川31～33系統):小向交番前下車(約10分),
またはJR, 東急:武蔵小杉(南口)下車, 東急バス(川31～33系統):小向交番前下車(約20分),

Tel.(044) 549-2240 (情報・通信システム研究所)]

議題

(1) 日常生活の中でのHCI

森 博彦(武蔵工大), 甲 洋介(日本IBM)

[概要] コンピュータが日常生活の一部になった時, どのような観点からHIを考えるべきかを考察する.

(2) KJ法グループ編成段階においてカードを自動配置する方法の検討

新田 清, 杉山公造(富士通研)

[概要] カードの並べ替え作業を支援するにあたり, 既存のクラスタ分析の手法を検討し問題点をまとめた.

- (3) 対話的抄録生成機能を持つ文書検索システム 住田一男, 伊藤悦雄, 三池誠司, 武田公人 (東芝)
 [概要] 検索結果の文書に対して, 可変長の抄録を自動的に生成する機能を実現した。
 (4) 見学: 東芝科学館 (15:15~16:00)
 (5) 仮想作業環境における状況記憶の活用 日高哲雄, 松浦宣彦, 岡田謙一, 松下 温 (慶大)
 [概要] 仮想作業環境において, その中ででの行動の状況記憶を編集していたファイルの検索などに役立てる。
 (6) イベントマクロによる Window System の高度化とその応用

奥村晃弘, 田川忠道, 宮崎敏彦 (沖電気)

[概要] GUI向上のためのイベントのマクロ化とそのプレゼンテーションシステムへの応用について述べる。

*研究会終了後, 簡単な懇親会を予定しています。

◆第14回 情報メディア研究会

(発表件数: 7件)

(主査: 相磯秀夫, 幹事: 石塚英男, 上林憲行, 田中 譲, 中川 透)

日 時 平成6年1月14日 (金) 9:00~17:00

会 場 日本電気 本社ビル 地下1階 多目的ホール

[東京都港区芝公園 5-7-1, 都営浅草線, 三田線: 三田下車, 徒歩2分. Tel.(03) 3454-1111]

議 題 小特集: 情報メディアのデザインと使い方

- 9:00~12:00 -

- (1) デザインの生態学的なアプローチ 須永剛司 (多摩美大)
 [概要] 人工的なはたらき, その受け手, それを包む環境, それら全体が演じる「出来事」の設計を考える。
 (2) メディアのデザイン 黒須正明 (日立)
 [概要] インタラクティブメディアなどを用いた新しいデザインアプローチの課題と実態を論じる。
 (3) 広告効果のメカニズムとその現状 奥野貴司 (読売広告社)
 [概要] 時代によって変化する広告の形態とその情報内容が効果に到達するプロセスを推論する。

- 13:00~17:00 -

- (4) 情報メディアを活用した創造的環境と異分野コラボレーション 藤井浩美 (NEC), 久保田晃弘 (東大)
 [概要] メーカー, 大学, 現代美術シンクタンク間コラボレーションの, 特に, 人間的側面について考察する。
 (5) プレイ&ゲームマルチメディア・アンビエンスにおけるオフィスデザインの試み 奥出直人 (慶大)
 [概要] メディアが装着された現代オフィスを快適環境にリ・デザインする実験をマルチメディアで報告する。
 (6) マルチメディア・ライブ (Interactive JLPGA) 香取啓志, 上田真知子 (朝日放送)
 [概要] マルチメディア環境を利用した TV ゴルフ中継と, イベント “Future, Media, Live”。
 (7) モーションメディアのコンセプト 平岩 明, 篠沢一彦, 内田典佳, 曽根原登 (NTT)
 [概要] 指動作の筋電信号による認識, パーソナルテレロボティクス, 移動ロボットのパスプランニングを提案。

◆第74回 記号処理研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 小川貴英, 幹事: 天海良治, 寺田 実, 湯浦克彦)

日 時 平成6年1月14日 (金) 13:00~17:00

会 場 工学院大学 11階 第8会議室

[東京都新宿区西新宿1-24-2, JR: 新宿 (西口) 下車, 徒歩約10分. Tel.(03) 3342-1211]

議 題

- (1) 関数型言語の投機的実行と負荷分散 新田善久, 武市正人 (東大)
 [概要] 疎結合 MIMD 計算機上に処理系を実装し, 投機的実行による負荷分散についての実験結果を示す。
 (2) TAO のパッケージシステム 中村昌志, 天海良治, 山崎憲一, 吉田雅治, 竹内郁雄 (NTT)
 [概要] 記号処理カーネルの一部としてのプリミティブな機能, 保護機能の提供について述べる。
 (3) PaiLispを用いたペトリネットの解析と実行 川本真一, 伊藤貴康 (東北大)
 [概要] ペトリネットの解析と実行を行うシステムのPaiLisp による試作と評価。
 (4) 記号処理計算機Silentのネットワークアーキテクチャ 村上健一郎 (NTT)
 [概要] ソフト・ハードの両面にわたって Silent のネットワークの基本的な設計思想を明らかにする。
 (5) Tachyon Common Lisp コンパイラの実現方式と評価 新谷義弘, 長坂 篤 (沖電気)
 [概要] 高速性と移植性を重視したコンパイラの実装方式とその評価について述べる。

◆第47回 情報システム研究会

(発表件数:7件)

(主査:上野 滋, 幹事:内木哲也, 中嶋聞多, 初瀬川茂)

日 時 平成6年1月18日(火) 13:00~17:30

会 場 工学院大学 11階 第8会議室(所在地は前記参照)

議 題

●一般発表

- (1) 芸術と科学の融合を目指した新しい統合化教育システムの構築

Issam A. Hamid, 前川道博(東北芸術工科大), 川上佳樹, 西牧智彦(富士ゼロックス)

[概要] 情報デザイン学教育のためにSUNとMacで構成した分散システムの設計思想とその評価。

- (2) メディア操作用スクリプト 一條 博, 田中正史(ケンウッド), 島田一雄, 降矢典雄(都立航空高専)

[概要] 主にデータの利用を目的とし, ファイルシステム, ユーザインタフェース機能を持つスクリプト言語。

●小特集: ダウンサイジング

- (3) ダウンサイジングへの対応

竹下 亨(中部大)

[概要] クライアント/サーバモデルを主とする分散処理対応のソフトウェアとソリューションの展開を概観。

- (4) ダウンサイジングの主流PC-LANの現状と事例

角田好志(アクシオ)

[概要] PC-LANはWAN環境を得て情報システムの代替としての条件を整えつつありその方向性を探る。

- (5) 広域ネットワークを利用した分散処理構築技術

伊東義高(川鉄システム開発)

[概要] 広域ネットワークを利用したクライアント/サーバモデルによるメインフレーム/UNIX機間の連携。

- (6) ライトサイジング環境でのシステム構築技術

川妻康男(富士通)

[概要] 多様化するコンピュータの利用形態の分析を, データの流れを中心として行うアプローチを紹介する。

- (7) 情報処理入門教育における分散処理システムの運用と問題点

青木振一, 青田広史, 魚住 董(沼津高専)

[概要] 教育現場におけるunix分散システムのメリットとデメリットを実例を挙げながら検討する。

- (8) 討論: ダウンサイジング(16:55~17:30)

◆第92回 人工知能研究会

(発表件数:8件)

(主査:石塚 満, 幹事:沼尾正行, 橋田浩一, 吉田裕之)

日 時 平成6年1月19日(水) 9:40~17:00

会 場 神戸大学 瀧川記念学術交流会館

[神戸市灘区六甲台町1-1, 阪急(神戸線):六甲下車, 神戸市バス(36系統):文理農学部前下車, 徒歩3分。
JR新神戸駅よりタクシーで約15分。Tel.(078) 881-1212]

議 題

- 9:40-12:20 -

- (1) トランザクション論理プログラミングの実装とプランニングへの応用

磯崎秀樹(NTT)

[概要] プラン認識や複雑なプランニングに有用なトランザクション論理の実装法とその応用例を示す。

- (2) 信念様相論理に対する様相節変換型証明器の実現

赤埴淳一(NTT), 井上克巳(豊橋技科大), 長谷川隆三(ICOT)

[概要] Translation法の応用によるKD45多重様相体系に対する効率的な様相節変換型証明器の実現。

- (3) 特別講演:分散人工知能 - 交渉とその周辺 -

桑原和宏(NTT)

[概要] 交渉に関する研究を中心に最近の分散人工知能の研究を紹介する。

- 13:20-17:00 -

- (4) 知的医薬品設計エキスパートシステム(IDDEX: Intelligent Drug Design EXpert)の設計について

関谷正明(関西大), 岩井憲一(阪大), 野村康雄(関西大), 溝口理一郎, 植田弥吉(阪大)

[概要] 新薬設計に伴う化学構造や, それらの設計知識の獲得を行い, これを後の設計に役立てる。

- (5) 時間知識ベースにおける不確定時点の扱いと階層化による効率化

呉 楽水, 石塚 満(東大)

[概要] 時間の曖昧性を表わすための不確定時点の抽象化操作と時間知識ベースの階層化方法を提案する。

- (6) 複合類推による物理現象の理論形成

佐々木和雄, 上原邦昭, 前川禎男(神戸大)

[概要] 過去の現象との部分的類似性から定性モデルを組み合わせて未知の現象のモデル化を行う手法の提案。

- (7) 時間系列を伴う例からの抽象化に基づく戦略学習

松浦 聡, 上原邦昭, 前川禎男(神戸大)

[概要] ゲームの対戦履歴をプラン系列として抽象記述空間に写像し演繹的に戦略を学習するための手法を提案。

- (8) 強化学習における差分データの利用

幸島明男, 仁木和久(電総研)

[概要] 入力データの変化を記号的に分類することにより, 行動の選択に利用する方法について考察する。

* 20日は同会場にて電子情報通信学会（人工知能と知識処理研究会）が開催されます。

◆第87回 コンピュータビジョン研究会

（発表件数：11件）

（主査：杉原厚吉，幹事：井宮 淳，谷口倫一郎，長谷川純一）

日 時 平成6年1月20日（木）9：00～15：30

会 場 大阪大学 基礎工学部 I棟1階 AV演習室

[豊中市待兼山町 1-1, JR：大阪下車，阪急（宝塚線）：石橋下車，徒歩25分，または地下鉄（御堂筋線）：千里中央下車，阪急バス（大阪国際空港行）：阪大豊中学舎前下車（約15分），徒歩10分。Tel.(06) 844-1151 (ext.4621 八木)]

議 題

－ 9:00-12:00 －

- (1) 領域間の分離度に基づく物体輪郭抽出法 福井和広（東芝）
- (2) 因子分解法による画像時系列からの形状復元法の検討 笹野 剛，出口光一郎（東大）
- (3) 複数移動ロボットの協調観測による移動物体の運動推定 林 涯，八木康史，谷内田正彦（阪大）
- (4) 能動的な視線制御を利用した物体の探索と追跡

喜多伸之（電総研），Sebastien Rougeaux (Institut d'Informatique d'Entreprise)

國吉康夫，坂根茂幸（電総研），三上芳夫（都立高専）

- (5) 視覚サーボによるカメラ姿勢と内部パラメータの同時決定法 木下敬介，出口光一郎（東大）

－ 13:00-15:30 －

- (6) 大局視と局所視の統合による複合センシングシステムの構築 奥村 仁，八木康史，谷内田正彦（阪大）
- (7) 大局的オプティカルフロー－変位関数展開法－ 中島義和（福井大），田村進一（阪大）
- ロバート・クロース（Cedars-Sinai医療センター），青柳 剛，岡崎耕三（福井大），山本修三（阪大）
- (8) 実例と教示による物体形状の概念学習－定量3D情報から定性値表現へ－

董 剛，山口智浩，八木康史，谷内田正彦（阪大）

- (9) Bezier 補間法を用いた空間曲線のステレオマッチング

亀井宏行，木下祿章，井上裕一，井宮 淳（千葉大）

- (10) 特徴点対応を必要としない剛体の位置合せ手法

喜多泰代（電総研）

- (11) 線図形の類似度とその計算法

田中栄一，栗野宏昭，増田澄男（神戸大）

* 同会場にて，ひきつづき電子情報通信学会（パターン認識・理解研究会）が開催されます。

◆第96回 ソフトウェア工学研究会

（発表件数：30件）

（主査：磯田定宏，幹事：青山幹雄，大蒔和仁，深澤良彰）

－「プログラミング－言語・基礎・実践－（PRG）」研究会同時開催－

今回の研究会は，ソフトウェアに対してそれぞれ工学の立場および科学の立場を基本的に有するプログラミング－言語・基礎・実践－研究会と異文化交流を深め，互いに刺激し合うことを目指して同時開催といたしました。多くの方々のご参加をお待ちいたします。

* プログラミング－言語・基礎・実践－研究会の詳細につきましては後記をご参照ください。

日 時 平成6年1月20日（木）8：50～17：30

21日（金）9：00～17：30

会 場 鹿児島大学 工学部 会議室（管理棟3階（A会場），および情報工学科電算機演習室（B会場））

[鹿児島市郡元 1-21-40, 鹿児島空港からリムジンバス（西鹿児島または鴨池新港行）：西鹿児島下車，市電（郡元行）：工学部前下車，徒歩3分。Tel.(0992) 85-7111 (ext.8205)]

議 題

1月20日（木）（A会場のみ）

－ 8:50- 9:00 －

- (1) 開会の辞

●設計分析

－ 9:00-10:30 －

- (2) 高レベル・ペトリネットを用いたオブジェクト指向設計 元木 誠，中島 震（NEC）

[概要] 設計仕様の整合性と設計内容の妥当性が確認可能なオブジェクト指向設計の一形式モデルを提案する。

- (3) オブジェクト指向分析における機能モデル検証支援

大西 淳（京大）

[概要] 要求言語 VRDL によってビジュアルに表現された機能モデルの正当性をアニメーション化により検証。

- (4) PCTE スキーマから導出されるデータ操作プログラムについて

満田成紀，沢田篤史，鯉坂恒夫，松本吉弘（京大）

〔概要〕 PCTEスキーマに基づくデータアクセスのパターンを類型化し、C++コードの自動生成を試みる。

○PRG研究会開催（後記参照） - 10:45-12:15 -

●オブジェクト指向 - 13:00-14:30 -

(5) オブジェクト指向言語のための視覚的プログラミング支援環境 萩庭 崇, 永田守男 (慶大)

〔概要〕 図を用いてクラス階層を構築し、メソッドの誤った再定義を防止するSmalltalkのための環境。

(6) オブジェクト指向プログラミングにおけるデメテル法則の定式化

黄 錫炯 (阪大), 梁 海述 (江原大学校, 韓国), 辻野嘉宏, 都倉信樹 (阪大)

〔概要〕 クラス間関係を定式化し、デメテル法則を満たすか否かの判定と変換アルゴリズムについて述べる。

(7) 型に基づく複合オブジェクトの振舞いの解析 宮本衛市 (北大), 何 克清 (武漢大)

〔概要〕 オブジェクトの状態遷移を正規表現した式と型を考え複合オブジェクト内でのメッセージを解析する。

○PRG研究会開催（後記参照） - 14:45-15:45 -

●パネル討論 - 16:00-17:30 -

テーマ：オブジェクト指向は本当に役に立っているのか

ーソフトウェア工学の立場およびソフトウェア科学の立場からー 司会：大蒔和仁（電総研）

パネリスト（順不同）：本位田真一（東芝），佐伯元司（東工大），久世和資（日本IBM）

加藤和彦（筑波大）

1月21日（金）（A，B会場）

< A会場 >

●形式的手法 - 9:00-10:30 -

(8) 部品階層に基づくオブジェクト指向プログラミング言語処理系の検討

平松耕太郎, 魚井宏高, 首藤 勝 (阪大)

〔概要〕 筆者らが提案する部品階層に基づくOOPを π 計算で表し、このOOPLのトランスレータを検証する。

(9) リフレクティブ言語を用いた形式的仕様記述の支援 広井 武, 佐伯元司 (東工大)

〔概要〕 リフレクション言語における仕様記述の支援を記述スタイルに基づいて行う。

(10) 自然語仕様から代数的仕様への変換における表現式の構文規則の生成

大崎敦司, 石原靖哲 (阪大), 関 浩之, 嵩 忠雄 (阪大/奈良先端大)

〔概要〕 自然語仕様を解析することによって、代数的仕様における表現式の構文規則を生成する。

●仕 様 - 10:45-12:15 -

(11) 形式的仕様記述プロセスにおけるモジュール協調 蓬萊尚幸 (IPA)

〔概要〕 要求の変更に柔軟に対応するためのモジュール演算機能について述べる。

(12) サービス仕様の関係に基づいたインクリメンタル開発プロセス 金井 敦, 市川晴久 (NTT)

〔概要〕 サービス仕様を複数の部分仕様に分割し、部分仕様の関係定義から開発プロセスを導出する。

(13) アプリケーション・ソフトウェア・システムの要求仕様決定方法 大槻 繁 (IPA)

〔概要〕 要求仕様を、対象世界記述を出発として組織のミッションを考慮して戦略的に決定する方法。

○PRG研究会開催（後記参照） - 13:00-14:00 -

●テスト - 14:15-15:45 -

(14) 順序列テスト基準に基づくテスト充分性評価システム

川口 豊, 伊東英典, 古川善吾, 牛島和夫 (九大)

〔概要〕 順序列テスト基準に基づく、C並行処理プログラムのテスト充分性評価システムについて報告する。

(15) 再試験を可能とするソフトウェア自動試験環境 金子 齐, 黒田憲一, 白石 智, 立元慎也 (NTT)

〔概要〕 試験シナリオによるソフトウェア自動試験環境をリグレーションテストに適用する課題と実現法の提案。

(16) オブジェクト指向プログラムのテスト法に関する一考察

古川善吾, 梅田修一, 片山哲郎, 伊東英典, 牛島和夫 (九大)

〔概要〕 テスト法構築手順に基づいたC++プログラムのテスト充分性評価技法の提案と議論を行う。

●実システム - 16:00-17:30 -

(17) 並列型事務処理システム 米川 清 (熊本商科大)

〔概要〕 経理財務システムの逐次的プロセスと並列のプロセスを調整する仕組みについて報告する。

(18) 自動車用コンピュータにおける制御タイミング仕様記述方法の検討

佐野範佳, 寺嶋立太, 手嶋茂晴, 山崎知彦, 原田義久 (豊田中央研究所)

坂 守, 鈴木幹雄 (アイシン精機)

〔概要〕 制御仕様に関係する信号変化の因果関係、タイミング制御を形式的に図形表現する方法を提案する。

(19) C++プログラム・データベース構築

安田 和, 中村宏明, 大平 剛, 三ッ井欽一 (日本IBM), Shahram Javey (IBM Canada)

〔概要〕 C++のプログラム開発支援のためのプログラム・データベースをメッセージ通信によって構築する。

< B会場 >

●応用指向開発環境

— 9:00-10:30 —

(20) 分散共有メモリ型並列計算機のOS開発のためのクロス開発環境

村山正之, 斉藤信男 (慶大)

〔概要〕 複数のマイクロカーネルが協調して動作する環境を単一のUNIX上に実現する試みについて報告する。

(21) ラウンドトリップ的な設計作業を可能とする開発支援環境の検討

佐藤友康, 外山勝保 (NTT)

〔概要〕 データベースの概念設計と論理設計を行き来する設計プロセスを支援するリポジトリについて述べる。

(22) 携帯情報端末ソフトウェアのためのビジュアル開発環境「Visual Tools」の開発と評価

石橋昌幸, 小野孝志, 富田典幸, 井上英俊, 工藤隆良 (三洋電機)

〔概要〕 「Visual Tools」の開発内容およびサンプルプログラム作成結果に基づく評価を紹介する。

●GUI, MM, CSCW

— 10:45-12:15 —

(23) オブジェクト指向プログラミングによるデスクトップの開発

是津耕司 (日本IBM)

〔概要〕 OOPを用いたデスクトップの開発に関する考察と開発事例を紹介する。

(24) 分散型マルチメディアプラットフォームDEMPO IIの開発と授業への適用

吉野 孝, 宗森 純, 長澤庸二 (鹿児島大)

〔概要〕 パソコンとワークステーションとを統合した分散型ソフトウェア開発環境を実現し演習に適用した。

(25) 非同期分散型会議の事象駆動型討議プロセスによるモデル化と調整支援への応用

門脇千恵, 落水浩一郎 (北陸先端大)

〔概要〕 非同期分散型のCSCW環境を事象駆動型の討議プロセス群としてモデル化し, 構造化手法を論じる。

○PRG研究会開催 (後記参照)

— 13:00-14:00 —

●評価とメトリクス

— 14:15-15:45 —

(26) 日米における上流CASEツールの効果と評価の分析

藤村直美 (九芸工大)

〔概要〕 上流CASEツールの採用によるソフトウェア開発への影響/効果, ツール自体の評価を分析する。

(27) 認知科学的プログラム理解の考え方の方法

上野晴樹 (東京電機大)

〔概要〕 主として初心者によって書かれたプログラムを認知科学的に理解する考え方と方法について議論する。

(28) バグ作込みにおけるストレス影響度の分析とストレスメトリクスの提案

古山恒夫, 新井義夫, 飯尾和彦 (NTT)

〔概要〕 ストレスがどの程度バグ作込みに影響を与えるかを実験により定量的に明らかにした結果を報告する。

●通信システム

— 16:00-17:30 —

(29) 通信ソフトウェア生成ツールSERIOUSの開発とOSI分散トランザクション処理への適用

辻 宏郷, 粟屋英司, 楠 和浩, 中川路哲男 (三菱電機)

〔概要〕 状態遷移表と実装依存情報からプロトコルマシンのソースコードを生成するツールを開発した。

(30) 通信サービス仕様の協同的設計

三上節子, 山野敬一郎, 更科克幸, 高橋 薫, 土岐田義明 (高度通信システム研)

〔概要〕 多人数による通信サービスの仕様化と検証に関する方法論について考察する。

(31) 拡張有限状態機械モデルの通信プロトコルのlivenessの検証法

須川 聡, 樋口昌宏, 藤井 護 (阪大)

〔概要〕 不変式により安全性が保証されたプロトコルを対象に常に正常終了する等のlivenessの検証法の提案。

*合同懇親会: 20日(木)の研究会終了後, NTT 桜島荘 ((0992) 55-2228) にて予定しております。

◆第15回 プログラミング・言語・基礎・実践—研究会

(発表件数: 9件)

(主査: 萩谷昌己, 幹事: 大堀 淳, 柴山悦哉, 松岡 聡)

—「ソフトウェア工学 (SE)」研究会同時開催—

今回の研究会は, ソフトウェアに対してそれぞれ工学の立場および科学の立場を基本的に有するソフトウェア工学研究会と異文化交流を深め, 互いに刺激し合うことを目指して同時開催といたしました。多くの方々のご参加をお待ちいたします。

*ソフトウェア工学研究会の詳細につきましては前記をご参照ください。

日 時 平成6年1月20日(木) 8:50~17:30

21日(金) 13:00~14:00

会 場 鹿児島大学 (前記「ソフトウェア工学研究会」参照)

議 題

1月20日(木) (A会場のみ)

— 8:50~ 9:00 —

(1) 開会の辞

○SE研究会開催（前記参照） - 9:00~10:30 -

●言語とプログラム解析 - 10:45~12:15 -

(2) リフレクション機構を持った仕様記述言語のための記述支援 鶴飼孝典（富士通研）

[概要] メタ情報をユーザに理解しやすい形で提供することのできる環境について報告する。

(3) エージェント指向言語 Flage 田原康之，糸野文洋，大須賀昭彦，本位田真一（IPA）

[概要] 環境の変化にも柔軟に対応できるソフトウェア構造を記述するための仕様記述言語。

(4) プログラムの静的解析技法を用いたプログラム簡素化手法の検討

高谷暢之，練 林，井上克郎（阪大），鳥居宏次（奈良先端大／阪大）

[概要] 多機能なソフトウェアシステムから必要な機能だけを残したサブシステムの機械的な構築手法の検討。

○SE研究会開催（前記参照） - 13:00~14:30 -

●オブジェクト指向 - 14:45~15:45 -

(5) オブジェクト指向ソフトウェア開発におけるプログラム理解支援

中村宏明，安田 和，大平 剛，三ッ井欽一（日本IBM）

[概要] オブジェクト指向開発におけるプログラム理解の重要性とその困難さ，解決法を述べる。

(6) メソッドスキーマにおける型整合性の解析アルゴリズム

百々浩樹（奈良先端大），石原靖哲，関 浩之（阪大），嵩 忠雄（奈良先端大）

[概要] オブジェクト指向プログラムにおいて実行時に結合すべきメソッドが一意に定まるかどうかの解析法。

- 16:00~17:30 -

●パネル討論（前記「ソフトウェア工学研究会」参照）

1月21日（金）（A,B会場）

< A会場 >

○SE研究会開催（前記参照） - 9:00~12:15 -

●理 論 - 13:00~14:00 -

(7) Calculus of Instant Behavior from Concurrent Behavior Using Process Algebra

磯部祥尚，大蒔和仁（電総研）

[概要] 複雑な平行プロセスを近似的に解析するためのプロセス代数の提案。

(8) 古典線形論理のソフトウェア開発への応用

小方一郎（電総研）

[概要] 古典線形論理の解釈として提案されている証明式を用いてプログラムの実行を実現する。

○SE研究会開催（前記参照） - 14:15~17:30 -

< B会場 >

○SE研究会開催（前記参照） - 9:00~12:15 -

●実 装 - 13:00~14:00 -

(9) 並列計算モデルに基づく分散オブジェクト指向UIMSの実行時アーキテクチャの設計と実現

佐藤 豊，大蒔和仁（電総研）

[概要] 対話型ソフトウェアの部品間を柔軟に統合し系統的に管理するVIA-UIMSのシステム構成について。

(10) トライノ状態遷移機械の効率的実装方式

増井俊之（シャープ）

[概要] トライ構造や状態遷移機械を効率的な遷移表にコンパイルするシステムFlexについて。

○SE研究会開催（前記参照） - 14:15~17:30 -

*合同懇親会：20日（木）の研究会終了後に予定しています。

◆第99回 自然言語処理研究会

（発表件数：13件）

（主査：野村浩郷，幹事：永井秀利，林 良彦，丸山 宏）

日 時 平成6年1月20日（木）13:00~17:10

21日（金）10:00~15:40

会 場 大阪大学 言語文化部 大会議室

[豊中市待兼山町1-1，JR：大阪下車，阪急（宝塚線）：石橋下車，徒歩15分，または，地下鉄（御堂筋線）：千里中央下車，阪急バス（大阪国際空港行）：阪大豊中学舎前下車（約15分）。Tel.(06) 844-1151 (ext.5576 成田研，5671 英語資料室)]

議 題

1月20日（木）

(1) 事例に基づくプランニングを用いた対話管理手法

荻野浩司，上原邦昭，前川植男（神戸大）

〔概要〕 プラン実行と状態観測を交互に行う過程で、プラン事例を逐次修正しながら対話を進める対話管理手法。

(2) 抽出パターンの階層的照合に基づく内容抽出法 松尾比呂志 (NTT)

〔概要〕 ワイルドカードを含む抽出パターンを用いた未知語に強い内容抽出法の提案とその実験結果を述べる。

(3) 文章内構造を複合的に利用した論説文要約システム GREEN

山本和英, 増山 繁 (豊橋技科大), 内藤昭三 (NTT)

〔概要〕 日本語の種々の表層の特徴を利用した論説文要約手法の提唱と、そのシステム GREEN の作成と検討。

(4) 表モデルに基づく日本語作表システム

山口智治, 市山俊治 (NEC)

〔概要〕 表項目の日本語定義から表を埋めるデータの検索式を生成する日本語インタフェースについて述べる。

(5) 数値データ処理のための自然言語インタフェース機能

宮部隆夫, 山口智治, 芝 温子, 谷 幹也, 市山俊治 (NEC)

〔概要〕 金額や期日・期間などの数値項目を含むデータベースを扱う自然言語インタフェース機能に関する。

(6) マルコフ連鎖モデルによる文節かな漢字変換候補の絞り込み方法

荒木哲郎 (福井大), 池原 悟 (NTT), 真田陽一 (福井大), 芳永寛央 (松下電器)

〔概要〕 文節内および文節間のマルコフ連鎖情報を用いたかな漢字変換の生成候補の絞り込み方法を提案する。

1月21日 (金)

— 10:00-12:00 —

(7) LR表を用いたチャートパーズング

伊東秀夫 (リコー)

〔概要〕 高い処理効率を持つ表題のアルゴリズムを開発し、富田法との比較、および各種評価実験を行った。

(8) 外国人の書いた日本語文の訂正に関する基礎的研究

坂倉 守, 大西 昇, 杉江 昇 (名大)

〔概要〕 外国人の書いた日本語文に良く現れる誤りを分類し、そのような誤りの訂正を試みる。

(9) 未知語の復元

野田雄三 (阪大)

〔概要〕 辞書法によるミスタイプ未知語の復元法とその効果について報告する。

— 13:00-15:40 —

(10) 文接続助詞「に」に関する形式意味論的考察

武藤伸明, 中川裕志 (横浜国立大)

〔概要〕 種々の連体辞を伴って文接続詞として機能する「に」の意味論について形式的考察を行う。

(11) 連体修飾節の解析プロセス

成田 一 (阪大)

〔概要〕 「の節」「ところ節」の解析機構を解明し、日本語固有の連体修飾節の構造関係を総合的に捉える。

(12) 類似性に基づいた日韓対訳テキストの文対応

黄 道三, 長尾 真 (京大)

〔概要〕 日本語文から変換した韓国語文と対訳テキストの韓国語文との類似度を用いて文対応を行う方法を示す。

(13) 多様な自然文間のパターンマッチング

安藤司文 (敬和学園大)

〔概要〕 多様に表現される文と文をどのような方法でパターンマッチングを行えばよいかについて紹介する。

* 20日 (木) の研究会終了後に懇親会を予定しておりますので、ぜひ多数ご参加ください。

◆第31回 コンピュータと教育研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 一松 信, 幹事: 三好和憲, 矢野米雄, 吉田瑞穂)

日 時 平成6年1月21日 (金) 13:00~16:40

会 場 工学院大学 11階 第8会議室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) コンピュータ版心理学テキストの作成手法の開発 (2)

井原 零, 河村 敦 (作陽短大), 林 春男, 坂田省吾 (広島大)

山上 暁 (甲南女子大), 畑本恵子 (広島中央女子短大), 石原茂和 (尾道短大)

〔概要〕 前に報告したコンピュータ版心理学テキストの学習効果実験の結果とシステムの拡充についての報告。

(2) Microprogrammed E-MIX によるアセンブリ言語教育支援システムの設計と開発

中嶋卓雄, 荒木祐一郎, 中村良三 (熊本大)

〔概要〕 仮想計算機 MIX を拡張し、マイクロプログラムエミュレーションができるシステムを設計開発した。

(3) EWSを用いた計算機実験教育

家永慎太郎, 長嶋祐二, 芹澤照生, 溜渕一博, 篠原克幸, 三好和憲 (工学院大)

〔概要〕 情報工学実験の中でEWSにより計算機の命令実行過程を教育する事例について発表する。

(4) 高校化学の知的CAIにおける入力文解釈機構について

青島弘和, 沼野井淳, 小原啓義 (早大), 小西達裕, 伊東幸宏 (静岡大), 高木 朗 (CSK)

〔概要〕 高校化学の問題演習を対象に学生が設定した話題を受けつけて教育行動に反映させる機構を実現する。

(5) 日韓作文演習用知的CAIシステムにおける利用実験と誤り解析能力に関する評価

李 圭建, 小西達裕, 白井克彦 (早大)

〔概要〕 日韓作文演習用知的CAIシステムの利用実験と誤り解析能力について評価を行う。

◆第37回 アルゴリズム研究会

(発表件数: 4件)

(主査: 五十嵐善英, 幹事: 浅野哲夫, 白石洋一, 平田富夫)

日 時 平成6年1月25日(火) 13:00~15:20

会 場 日立製作所 中央研究所 記念館 6階 第2会議室

〔東京都国分寺市東恋ヶ窪 1-280, JR(中央線): 国分寺下車, 西武多摩湖線に沿って徒歩約10分。

Tel.(0423) 23-1111 (ext.2500)]

議 題

(1) K リンク最短パス問題と行列探索

徳山 豪 (日本IBM)

〔概要〕 完全有向グラフ上のK リンク最短パス問題とその応用を考える。

(2) 茨大型ライフゲーム II

加納幹雄, 佐々木哲也, 藤田宏明, 星 誠司 (茨城大)

〔概要〕 新型ライフゲームを提案したが, その後の進展について報告する。

(3) A Parallel Approximation Algorithm for the Minimum Common Suptertree Problem

山口敦子, 中野浩嗣 (日立), 宮野 悟 (九大)

〔概要〕 最小共通包含木問題の並列近似アルゴリズムを提案し, 計算量と最悪時の誤差を示す。

(4) On the Complexity of Manpower Shift Scheduling

Lau Hoong Chuin (東工大)

〔概要〕 資源管理として重要な人的資源スケジューリング問題の計算複雑さについて議論する。

◆第63回 マルチメディア通信と分散処理研究会

◆第5回 グループウェア研究会

} 合同研究会

(発表件数: 21件)

DPS (主査: 白鳥則郎, 幹事: 鈴木健二, 滝沢 誠, 寺中勝美)

GW (主査: 松下 温, 幹事: 岡田謙一, 守屋康正, 山上俊彦)

日 時 平成6年1月27日(木) 10:20~16:55

28日(金) 10:20~17:10

会 場 NTT 横須賀研究開発センタ 121A 会議室

〔横須賀市武1-2356, 京浜急行: 野比下車 (品川より約70分), 京急バス (通研行あるいは横須賀市民病院行): 通研前下車 (約10分)。Tel.(0468) 59-3781 (山上)]

議 題

1月27日(木)

- 10:20~11:50 -

●グループワーク環境

(1) 総合的グループワーク支援環境 Power Web

中村雄三, 桑名栄二, 増尾 剛, 坂本泰久, 梁 栄司 (NTT)

〔概要〕 協調作業, 組織, 支援機能 (COF-Model) を基盤とするグループワーク支援環境: Power Web 構想。

(2) 協調的な創造活動支援のためのコラボレーションルーム Cogent

桑名栄二, 中村雄三, 坂本泰久, 増尾 剛, 梁 栄司 (NTT)

北山哲也, 安達麻紀, 和田一也 (内田洋行)

〔概要〕 リモートやFace-to-Face環境での協調的な創造活動支援する環境 (Cogent) について述べる。

(3) 汎用機器の統合制御による日常研究活動の支援システムの構築

望月祐洋, 峯尾淳一, 村井 純, 徳田英幸 (慶大)

〔概要〕 日常研究活動へ種々の汎用機器を統合的に適用することにより創造型協調活動支援環境構築を目指す。

- 13:00~16:55 -

●インタラクション支援

(4) 対話プロセスの記述モデル (EDCモデル) の提案

黒須正明, 鹿志村香 (日立)

〔概要〕 対話プロセスを, 展開, 深化, 収束のフェーズに分け, 対話行動を記号表現した。

(5) 気持ちの伝わるコミュニケーションのための非言語的な感情表現について

井上智雄, 岡田謙一, 松下 温 (慶大)

〔概要〕 対人コミュニケーションで重要な非言語的情報のうち, 感情を表現する動作について検討した。

(6) 接近遭遇コミュニケーション

寺内康之, 滝沢 誠 (電機大)

〔概要〕 人間の交流の場を分散システム上に実現することにより, 人間が互いに触発し合う環境を提案する。

●リアルタイム通信

(7) 連続メディアを扱うためのマルチキャスト通信

尾上裕子, 南部 明 (NTT)

〔概要〕 中継エージェントにおける相対的レート制御機構について述べる。

(8) 場の雰囲気重視したテレビ会議 前田典彦, Giseok Jeong, 市川裕介, 岡田謙一, 松下 温 (慶大)

〔概要〕 視線一致が可能な等身大相手画像で利用者を取り囲むことにより, 人間的な会話空間の構築を目指す。

(9) グループ作業支援のための音声混合機能 増井誠生, 神田陽治 (富士通研)

〔概要〕 共同作業での話者弁別性の向上のため, 作業者の仮想位置に従うステレオ音声混合機能を実現した。

(10) 招待講演: グループウェアを指向したマルチメディアネットワークの展開と課題 木下研作 (NTT)

〔概要〕 多様なメディアニーズに対応する次世代通信網の発展形態と課題を協調行動支援の観点から解説する。

1月28日(金)

- 10:20-11:50 -

●OSI/ネットワーク

(11) MSCと LOTOSによる通信システム設計支援システム

田口 毅, 高橋 薫, 土岐田義明 (高度通信システム研)

〔概要〕 MSC エディタと, LOTOS への変換系について述べ, MSC 仕様の検証について考察する。

(12) プリフェレンスによる経路制御のモデル

藤原和典 (早大), 村山優子 (WIDEプロジェクト), 吉田茂樹 (東大)

〔概要〕 域間網におけるプリフェレンスによる経路制御のモデル化を行う。

(13) ODP ビューポイントに基づく分散システムの設計法とその通信システムへの適用

藤長昌彦, 加藤聡彦, 鈴木健二 (KDD)

〔概要〕 複数の計算機から構成される通信システムの設計への ODP ビューポイントの適用について述べる。

- 13:00-17:10 -

●システム評価

(14) グループウェア利用のためのガイドライン

村上洋一 (日立), 宮崎一哉 (三菱電機), 村瀬一郎, 加藤美佐 (三菱総研)

〔概要〕 グループウェアを実験使用し効果的に使うための利用ガイドラインの作成を試み, 多くの知見を得た。

(15) グループウェアと評価項目について

村上洋一 (日立)

〔概要〕 当社の原価低減手法 (VEC) の考えを適用し, グループウェアの評価項目を詳細化し評価を試みる。

(16) 分散オフィス間の協調活動の考察

江谷典子 (富士ゼロックス)

〔概要〕 電子メール・FAX・電話のみを利用した著者らの協調活動の実態および社会へのインパクトを紹介。

●協調行動支援

(17) Inter Cam (Interactive Card Mail) の実装 布川博士, 奥村成吾, 瀬川典久, 宮崎正俊 (東北大)

〔概要〕 内容に応じたインタラクション, 多様な環境で動作メイルシステムの構築について述べる。

(18) 情報フィルタリング機能をもつ発散的思考支援環境の試作

森 康真, 國藤 進 (北陸先端大)

〔概要〕 ユーザの情報に対する要求を明確にしながら必要な情報を得る思考支援環境の提案と構築。

(19) 空間型共同作業の実画像通信支援における独立した視点の支援

葛岡英明 (筑波大)

〔概要〕 空間型共同作業の実画像通信支援に必要な機能を考察し, 試作中のシステムの紹介を行う。

(20) 情報と時間の関連性に着目したグループ資源管理法の提案

市村 哲, 紙田 剛, 岡田謙一, 松下 温 (慶大)

〔概要〕 リアルタイム協同作業を行うための要件である時間調整と情報共有を一括支援する方法を提案する。

(21) グループ管理支援システムの構築

平岩真一 (富士通研)

〔概要〕 動的に変化する作業グループの管理機能を実現し, それと共有ワークスペース管理を結び付けた。

*懇親会: 1月27日(木) 研究会終了後に予定。

*本合同研究会は申し込み多数のため, 従来の予定の1月28日(金)の1日開催から27日(木), 28日(金)の2日間開催へと変更になりましたのでご了承ください。

◆第96回 計算機アーキテクチャ研究会

◆第62回 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会

} 合同研究会

(発表件数: 16件)

ARC (主査: 富田真治, 幹事: 中島 浩, 村上和彰, 矢野陽一)

OS (主査: 鈴木則久, 幹事: 清水 康, 萩野達也, 福田 晃)

日 時 平成6年1月27日(木) 13:30~17:00

28日(金) 9:00~15:30

会 場 ホテル城戸口屋 (山形蔵王・上山温泉)

[上山市新湯 4-3, JR (山形新幹線): かみのやま温泉下車, 徒歩15分. Tel.(0236) 72-0228]

議 題 特集: システムの定量的性能評価, および一般

1月27日(木)

(1) UNIX ネットワークにおけるタスク分散システムの実現と性能評価

吉田孝光, 高井昌彰, 佐藤義治 (北大)

[概要] 分散制御型の動的タスク分散システムの NFS を用いた UNIX 上への実装とその評価を報告する。

(2) 細粒度保護を支援するユーザレベル記憶管理方式の評価

新井克也 (NTT)

[概要] スレッド毎に個別実行環境を提供する記憶管理手法のオーバヘッドを基本操作コストを用いて評価する。

(3) Mach3.0 実装ボードにおけるシステムバスの測定

金原弘幸, 丸山輝幸 (リコー)

[概要] Mach3.0 を移植した SPARC ボード上で MBus の使用率を実測したので報告する。

(4) DBMS 動作特性の測定・解析

堀川 隆 (NEC)

[概要] EWS での OLTP 処理実行時のシステム動作解析結果, および待ち行列モデルによる性能予測との比較。

(5) 軽量プロセスを利用する応用プログラムの開発と性能評価の支援

新城 靖 (琉球大), 清木 康 (筑波大)

[概要] 軽量プロセス間の同期・通信プリミティブの開発と各プロセスの実行時間測定の支援について述べる。

(6) RISC 用 OS/omicon における言語 C 処理系とシステムソフトウェアの開発・評価環境

田中広幸, 中村浩之, 早川栄一, 並木美太郎, 高橋延匡 (農工大)

[概要] RISC 用 OS, 言語 C 処理系とシミュレータを中心とするその開発・評価環境について述べる。

1月28日(金)

- 9:00~12:30 -

(7) 並列処理最適化機構の実用アプリケーションを用いた性能評価

秋葉智弘, 松本 尚, 平木 敬 (東大)

[概要] バス結合並列計算機の同期最適化機構とキャッシュ効率化機構を実行駆動シミュレーションで評価する。

(8) 並列 FFT アルゴリズムと通信時間の評価

武田利浩, 丹野州宣 (山形大), 堀口 進 (北陸先端大)

[概要] 8 隣接格子結合 PA 上の並列 FFT 処理アルゴリズムを提案し, その通信時間を評価する。

(9) ネットワーク環境における分散共有メモリの実現と評価

藏前健治, 中條拓伯, 前川禎男 (神戸大)

[概要] ネットワーク環境における分散共有メモリの構築と SPLASH ベンチマークプログラムによる評価。

(10) BSD UNIX の下でのポータブルマルチスレッドライブラリの実現法

安倍広多, 松浦敏雄, 谷口健一 (阪大)

[概要] 移植性の良いマルチスレッドライブラリ, およびスレッドモニタ機能の実現法について述べる。

(11) ソフトウェアパイプラインによる条件分岐の際のハザードの影響の削減

安倍正人, 岡部公起, 根元義章 (東北大)

[概要] ハードウェア的なパイプライン処理をソフトウェアで行うことでステップ数が 50 % 以上削減できる。

(12) Formal Representation for Dynamic Extension of Distributed Systems Behaviors

Issam A. Hamid (東北工科大)

[概要] 情報システムの進化的な変更に対し, 柔軟に対応できる仕様の動的モデル化と仕様解析技法を論ずる。

- 13:30~15:30 -

(13) 画像生成用マルチスレッド型プロセッサのマイクロ・アーキテクチャ

木村浩三, 平田博章, 清原督三, 浅原重夫, 鷺島敬之 (松下電器), 尾上孝雄, 白川 功 (阪大)

[概要] 画像生成プログラムの振舞いよりマルチスレッド型プロセッサのマイクロアーキテクチャを決定した。

(14) 並列計算機 EM-X のプロセッサ・ネットワークインタフェースの最適化の検討

坂根広史, 児玉祐悦, 佐藤三久, 山名早人 (電総研), 坂井修一 (RWCP), 山口喜教 (電総研)

[概要] RTL シミュレーションによりプロセッサのネットワークインタフェース最適化を検討した。

(15) 超並列計算機 JUMP-1 の入出力サブシステム

中條拓伯 (神戸大), 松本 尚 (東大)

小畑正貴 (岡山理科大), 松田秀雄 (神戸大), 平木 敬 (東大), 金田悠紀夫 (神戸大)

[概要] 超並列計算機 JUMP-1 の入出力システムアーキテクチャの構成と評価実験システムについて。

(16) データ分割グラフ

中西恒夫, 城 和貴 (奈良先端大), 福田 晃 (九大), 荒木啓二郎 (奈良先端大)

[概要] データ分割を意識した並列化コンパイラの中間表現として, データ分割グラフを提案する。

*宿泊申込方法: ホテル城戸口屋に直接お申込みください。(12月27日までは宿泊枠を40名分確保してあります。)

◆第21回 人文科学とコンピュータ研究会

(発表件数: 9件)

(主査: 及川昭文, 幹事: 竹内 健, 長瀬真理, 八村広三郎)

日 時 平成5年1月28日(金) 10:00~17:20

会 場 鹿児島大学 工学部 会議室(管理棟3階)(所在地は前記参照)

議 題

- 10:00-12:30 -

- (1) ビデオによる古文書画像の効率的入力法と接続処理 柴山 守 (大阪国際大), 星野 聡 (京大)

[概要] ビデオカメラにより撮影した古文書画像のWSでの入力と接続処理における効率改善について述べる。

- (2) 発想一貫支援グループウェア郡元の実現

堀切一郎, 由井蘭隆也, 山元一永, 宗森 純, 長澤庸二 (鹿児島大)

[概要] 電子手帳を用いたデータ収集からイメージデータも扱うパソコン上のKJ法までの一貫支援を実現した。

- (3) 文献関連情報をもつ研究室用文献データベースの構築

二村祥一, 大澤伊作, 岡本則秀 (大分大)

[概要] 参考文献情報の利用により, 文献間の関連や文献の位置づけなどを示す文献検索システムを作成した。

- (4) 教科書索引を利用した社会科用語データベースの開発と応用

原 秀勝 (佐賀県立太良高), 坂谷内勝 (国立教育研)

[概要] 当データベースを開発し, 高校入試問題の出題分野・単元等の自動判定を試みた結果について。

- 12:30-17:20 -

- (5) デモンストレーション: 鹿児島大学 工学部 情報工学科 知能情報工学研究室 (12:30~14:00)

①KJ法支援グループウェア郡元, ②知的生産支援システムWadaman

- (6) 概念の形成と概念構造の融合

中島 誠, 渡邊美香, 伊藤哲郎 (大分大)

[概要] 異なる構造間で関連のある概念同士を対応づけ, 複数の構造をひととめに扱う方法を定式化する。

- (7) 感情における論理

藤田米春, 西島恵介, 杉田雅宏 (大分大)

[概要] 感情の発生や感情の行動の論理的側面とその取扱いについてシミュレーションの立場から分析する。

- (8) 次候補表示方法の入力効率に及ぼす影響についての検討

今村浩一郎, 宗森 純, 長澤庸二 (鹿児島大)

[概要] 次候補を1~3行表示で各々ネガ/ポジ/ハイライト表示して実験を行った結果, 差異が生じた。

- (9) パソコン通信と文字放送の相互交流システムの構築と運用

凍田和美 (大分県立芸文短大), 宇津宮孝一, 原山博文, 吉田和幸 (大分大)

[概要] 個人やグループの通信手段のパソコン通信と大衆への放送手段の文字放送が融合した新メディアの開拓。

- (10) UNIX日本語インタフェースにおける履歴情報の利用

西島恵介, 矢野敏之, 久保康司, 藤田米春 (大分大)

[概要] 入力系列を分析し, 語の省略, 照応, 次の入力の予測等への履歴情報の利用について検討する。

~~~~~

### \*\*\* 3月研究会 発表論文募集 \*\*\*

#### ◆ソフトウェア工学研究会

日 程 平成6年3月1日 (火)

会 場 機械振興会館

発表申込締切 平成6年1月7日 (金) (締切厳守)

問合せ先 青山幹雄 (富士通) Tel.(044) 754 - 4111 Fax.(044) 754 - 4223

e-mail: mikio@miki.nakahara.fujitsu.co.jp

#### ◆プログラミング-言語・基礎・実践-研究会

日 程 平成6年3月9日 (水)・10日 (木)

会 場 電気通信大学

議 題 特集: 並列分散処理

発表申込締切 平成5年12月24日 (金)

問合せ先 柴山悦哉 (東工大) Tel.(03) 3726 - 1111 ext.3211 Fax.(03) 3729 - 0231

e-mail: etsuya@is.titech.ac.jp

\*電子情報通信学会 (コンピュテーション研究会, ソフトウェアサイエンス研究会) との共催で開催されます。

#### ◆計算機アーキテクチャ研究会

◆ハイパフォーマンスコンピューティング研究会

} 合同研究会

日 程 平成6年3月10日 (木)・11日 (金)

会 場 札幌ソフトウェア専門学校 (札幌市)

議 題 第1回「ハイパフォーマンス・コンピューティングとアーキテクチャの評価」に関する北海道ワークショップ (HOKKE-1)

発表申込先 電子メールでお申込みください、 e-mail : Hokke-Apply@etl.go.jp  
問合せ先 電子メール(上記)でお問合せ下さい。  
発表申込締切 平成5年12月31日(金) 必着

◆ヒューマンインタフェース研究会

日 程 平成6年3月10日(木)・11日(金)  
会 場 中京大学(名古屋)  
発表申込締切 平成5年12月24日(金)  
問合せ先 小川克彦(NTT) Tel.(0468) 59-2967 Fax.(0468) 59-2332  
e-mail : ogawa@aether.ntt.jp

◆データベースシステム研究会

日 程 平成6年3月18日(金)  
会 場 工学院大学  
議 題 卒論、修論特集、および一般  
発表申込締切 平成6年1月7日(金)

◆オーディオビジュアル複合情報処理研究会

日 程 平成6年3月18日(金)  
会 場 ATR(京都)  
議 題 テーマ:マルチメディア一般(仮題)  
発表申込締切 平成5年12月27日(月)

\*特に申込先の指定がない研究会の発表申込希望者は研究会発表申込書(10月号本欄末添付)を期日までに事務局研究会担当までご送付ください。

~~~~~

◆第12回 テクニカルコミュニケーション研究グループ研究会

(発表件数:2件)

(主査:山田尚勇, 幹事:牛島和夫, 空閑茂起, 福島敏高)

日 時 平成6年1月12日(水) 13:30~17:00

会 場 機械振興会館 地下3階 研修2号室

[東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄:日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, またはJR:浜松町下車, バス:渋谷-東京タワー線東京タワー, 渋谷-東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車. Tel.(03) 3434-8211]

議 題

(1) 米国におけるテクニカル・ライターの教育と現状について

ジュリアン・ウィック(松下コンピュータシステム)

(2) 大学におけるテクニカルライティング教育

戸信昭(都立科学技術大)

参 加 費 研究グループ未登録者:2,000円

問合せ先 福島, 杉田(富士通) Tel.(044) 754-2660 Fax.(044) 754-2662

*日本工業技術振興協会(ユーザドキュメント研究部会)との共催(予定)で開催されます。

~~~~~

◆音声言語情報処理と音声入出力装置研究グループ

第6回研究会 講演および参加募集案内

日 時 平成6年2月4日(金) 13:00~17:00

5日(土) 9:00~15:00

会 場 西浦温泉シーサイドホテル 南風荘(蒲郡市西浦町大山 17-1. Tel.(0533) 57-2101)

議 題 テーマ:音声認識・理解の今後の課題

2月4日(金) ●招待講演, ●国際ワークショップ報告(2件), ●一般発表(3件)

2月5日(土) ●パネル討論:音声認識・理解の今後の課題, ●一般発表(4~5件)

参加費 一般：13,000円 学生：11,000円（1泊3食付）

申込方法 本研究会は合宿形式で行います。講演、または参加ご希望の方は、下記問合せ先までFax かe-mailでご連絡ください。その際、ご所属、氏名、連絡先、住所、電話、Fax 番号（お持ちでしたらe-mail 番号も）を記入願います。

講演申込締切：平成6年1月10日（月）

原稿締切・参加申込締切：平成6年1月20日（木）

問合せ先 小林 豊（京都工繊大） Tel.(075) 724 - 7473 Fax.(075) 724 - 7400  
e-mail : koba@dj.kit.ac.jp

\*電子情報通信学会（音声認識の実用化を目指す新手法時限研究専門委員会）との共催（予定）で開催されます。



## 平成6年度研究会について

平成6年度の研究会は下記の24研究会（\*新設1）で活動いたします。

なお、研究分野等の活動詳細、新規登録申込用紙に関しましては、会誌 Vol.35 No.2でご案内いたします。  
（\*平成5年度既研究会登録者には、別途継続案内を発送いたします。）

### 記

(円)

| 研 究 会 名                     | 登録費   | 研 究 会 名                | 登録費   |
|-----------------------------|-------|------------------------|-------|
| 1. 自然言語処理                   | 5,800 | 13. ハイパフォーマンスコンピューティング | 5,500 |
| 2. データベースシステム               | 5,000 | 14. 情報システム             | 5,000 |
| 3. 人工知能                     | 5,400 | 15. プログラミングー言語・基礎・実践ー  | 5,600 |
| 4. 記号処理                     | 4,400 | 16. 情報学基礎              | 5,300 |
| 5. ソフトウェア工学                 | 5,900 | 17. コンピュータと教育          | 4,100 |
| 6. 計算機アーキテクチャ               | 6,000 | 18. アルゴリズム             | 6,200 |
| 7. システムソフトウェアとオペレーティング・システム | 3,500 | 19. 人文科学とコンピュータ        | 5,300 |
| 8. コンピュータビジョン               | 5,100 | 20. 情報メディア             | 4,900 |
| 9. 設計自動化                    | 5,700 | 21. 音楽情報科学             | 4,500 |
| 10. マルチメディア通信と分散処理          | 5,600 | 22. オーディオビジュアル複合情報処理   | 4,200 |
| 11. ヒューマンインタフェース            | 5,100 | 23. グループウェア            | 4,500 |
| 12. グラフィクスとCAD              | 5,600 | 24. *音声言語情報処理          | 4,000 |

\*新設

## 「音声言語情報処理研究会」発足のお知らせ

## 目 的

1980年代の音声情報処理および自然言語処理などの基本技術の進展によって、音声言語によるコンピュータとのコミュニケーションを目指した音声言語情報処理の研究は、基本的な要素技術の研究から音声言語インタフェースによる問題解決システムや音声通訳システムなどのより高度で、複合的・総合的な研究フェーズに移行しつつある。さらに最近のワークステーションやパソコンの高速化とAD/DA変換器の標準装備によりソフトウェアだけで稼動する音声合成・認識システムが市販されるようになり、また、データベースや分析・認識ソフトウェアのパブリックドメイン化により従来の音声研究者以外でも音声言語情報処理への研究の参入の基盤が整いつつある。このように音声処理分野は音響信号処理から知識情報処理へと確実に新しい方向に進みつつある。

音声と言語の融合はアナログ情報とデジタル情報の統合化に関する新しいパラダイムを提供するもので、知識処理の中心テーマになりうるものである。これらの状況を踏まえ、近年、音声言語情報処理に関連した研究の重要性が認識されつつある。例えば、米国の ARPA や欧州の ESPRIT を中心とした音声言語処理プロジェクトや音声言語処理に関する国際会議 (ICSLP) の開催である。日本でも、文部省の重点領域研究で継続的に取り上げられ、また ATR 音声翻訳通信研究所や新情報処理開発機構、および各企業における大小のプロジェクトとして、ますます研究が活発化している。

音声言語情報処理に関する研究は、これまでも音声科学、音声情報処理、自然言語処理、計算言語学、インタフェース、認知科学、人工知能などの分野で研究がすすめられてきた。しかし、これらの技術の複合化・統合化がますます要求されるようになってきたため、このような新しい研究分野における研究討論の場の必要性から、平成3年度、本学会に「音声言語情報処理と音声入出力装置」研究グループが新設され、活動が行われてきたが、平成6年2月の研究討論会をもって活動を終了し、平成6年度からは「音声言語情報処理研究会」として発展、継続させていくことになった。本研究会は、これまでの研究グループ活動で好評であったテーマを設定した1泊2日の合宿形式の研究会を年2回計画している。その他に通常の研究会を3回開催し、「音声言語情報」をキーワードとした、音声と言語の統合、音声応用システム、音声インタフェースに関する研究発表と討論の場を設けるもので、多数の会員の参加と積極的な研究活動を期待するものである。

## 主な研究分野

- ・音声言語情報  
(音声言語の認識・理解・解釈および生成などの要素技術、統合アルゴリズム、統合アーキテクチャ、言語モデル、対話モデル、プロソディの生成モデル、解析アルゴリズム、データベース)
- ・音声言語処理システム  
(音声スポッティング、音声理解システム、音声対話システム、音声翻訳システム、発話生成システム)
- ・音声インタフェース (マルチモーダルインタフェース、ボイスメール、音声加工)
- ・音声応用 (音声による制御、語学学習、身障者支援、学習支援における音声言語処理)

## 提 案 者 (五十音順)

|              |              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 有木康雄 (龍谷大)   | 安達久博 (宇都宮大)  | 板橋秀一 (筑波大)   | 市川 熹 (千葉大)   |
| 岡 隆一 (RWCP)  | 岡田美智男 (NTT)  | 尾関和彦 (電通大)   | 箕 一彦 (NTT)   |
| 柏谷英樹 (宇都宮大)  | 北澤茂良 (静岡大)   | 北脇信彦 (NTT)   | 樽松 明 (電通大)   |
| 好田正紀 (山形大)   | 国分芳宏 (言語工學研) | 小林 豊 (京都工繊大) | 小原 永 (NTT)   |
| 匂坂芳典 (ATR)   | 迫江博昭 (九大)    | 鹿野清宏 (NTT)   | 島津 明 (NTT)   |
| 下平 博 (北陸先端大) | 白井克彦 (早大)    | 竹林洋一 (東芝)    | 田中和世 (電総研)   |
| 田中穂積 (東工大)   | 土屋 俊 (千葉大)   | 堂下修司 (京大)    | 中川聖一 (豊橋技科大) |
| 中島邦男 (三菱電機)  | 中島隆之 (シャープ)  | 中津良平 (NTT)   | 新田恒雄 (東芝)    |
| 新美康永 (京都工繊大) | 二矢田勝行 (松下技研) | 橋本新一郎 (セコム)  | 畑岡信夫 (日立)    |
| 広瀬啓吉 (東大)    | 藤崎博也 (東京理科大) | 古井貞熙 (NTT)   | 牧野正三 (東北大)   |
| 松本 弘 (信州大)   | 溝口理一郎 (阪大)   | 峯 恒憲 (九大)    | 柳田益造 (通信総研)  |
| 山崎泰弘 (ATR)   | 山本幹雄 (豊橋技科大) | 渡辺隆夫 (NEC)   |              |



アルゴリズム研究会 小規模国際会議  
論文募集

CALL FOR PAPERS—ISAAC'94

**Fifth Annual International Symposium on  
Algorithms and Computation**  
Beijing, August 25-27, 1994  
(In cooperation with the IEEE Computer Society)

The symposium is intended to provide a forum for researchers working in algorithms and theory of computation. The first of these symposia was held in 1990 in Tokyo, Japan, as SIGAL International Symposium on Algorithms; the second in Taipei, China, as The Second Annual International Symposium on Algorithms; and the third and fourth in Nagoya, Japan and in Hong Kong, respectively, as The Third and Fourth International Symposium on Algorithms and Computation.

Papers presenting original research in the areas of design and analysis of algorithms, computational complexity, and theory of computation are sought. Typical, but not exclusive, topics of interest include:

- Automata, languages and computability
- Algorithms (combinatorial/graph/geometric/randomized)
- VLSI and parallel algorithms
- Networks and distributed algorithms
- Theory of learning and robotics
- Number theory and cryptography

**Symposium Chair:** Xiang-Sun Zhang (Chinese Academy of Sciences, Beijing, China).

**Program Committee:** Siu-Wing Cheng (Hong Kong Univ. of Sci.&Tech.), F.K.R. Chung (Bellcore, USA), Kyung-Yong Chwa, (KAIST, Korea), Ding-Zhu Du (chair), Peter Eades (Univ. of Newcastle, Australia), Wen-Lian Hsu (Academia Sinica, Taipei, China), Frank D. Hsu (Fordham Univ., USA), Xiaodong Hu, (Chinese Academy of Sciences, Beijing, China), Marek Karpinski (Univ. of Bonn, Germany), Naoki Katoh, Kobe (Univ. of Commerce, Japan), Ker-I Ko (SUNY, USA), Ming Li (Univ. of Waterloo, Canada), Nimrod Megiddo (IBM, USA), Satoru Miyano (Kyushu Univ., Japan), Mike Sipser (MIT, USA).

**Invited Speakers:**

Ronald L. Graham (AT&T Bell Laboratories, USA),  
Wen-Jun Wu (Chinese Academy of Sciences, Beijing, China).

**Submissions:** Authors are requested to submit 15 copies (in English) of an extended abstract by March 15, 1994 to the program committee chair:

Dr. Ding-Zhu Du  
Computer Science Department  
University of Minnesota  
Minneapolis, MN 55455, U.S.A.

The extended abstract should include the e-mail address of the contact person and be printed on at most five double-spaced, double-sided pages.

**Important Dates:**

Extended Abstract due: March 15, 1994.  
Acceptance/rejection notification: April 30, 1994.  
Camera-ready version due: May 30, 1994.

For information about program, registration and local arrangement, please contact Xiang-Sun Zhang at FAX 861-254-1689 or D.-Z. Du at FAX (612)625-0572 or email dzd@cs.umn.edu.

This conference is supported by: The National Natural Science Foundation of China, The Institute of Applied Mathematics, Chinese Academy of Sciences, The Presidential Foundation of Chinese Academy of Sciences, The Chinese Operations Research Society, The National Science Council of China, IPSJ SIGAL, IEICE TGTFCC.

ソフトウェア工学会 小規模国際会議 論文募集

**The First Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC)**  
**December 7 - 9, 1994, Tokyo, Japan**

**SPONSOR**

The Special Interest Group on Software Engineering  
of the Information Processing Society of Japan (IPSJ/SIGSE)

**GENERAL CONFERENCE COMMITTEE**

|                    |                                               |
|--------------------|-----------------------------------------------|
| Conference Chair   | Sadahiro Isoda (NTT)                          |
| Program Chair      | Motoshi Saeki (Tokyo Institute of Technology) |
| Local Arrangements | Yoshiaki Fukazawa (Waseda University)         |
| Treasurer          | Mikio Aoyama (Fujitsu)                        |
| Publicity          | Kazuhiro Ohmaki (Electrotechnical Laboratory) |

The first Asia-Pacific Software Engineering Conference or APSEC is organized to bring together researchers and practitioners in software engineering from the international community, mainly from Asia-Pacific countries. APSEC has originally grown out of the joint activities of the two SIGSE's, namely the Special Interest Group of the Information Processing Society of Japan (IPSJ/SIGSE) and the Special Interest Group of the Korea Information and Science Society (KISS/SIGSE), in organizing the Joint Conference on Software Engineering or JCSE twice. The first one was successfully held in Seoul, Korea in March 1992 and the second one will be held in Fukuoka, Japan in November 1993, receiving twice as many papers as the first conference from several Asian countries. By seeing this, we understood that there are growing demands in the Asia-Pacific countries to have our own conference on software engineering. This led us to decide to terminate the JCSE after the Fukuoka conference and then to start a new conference, i.e., APSEC. We believe that APSEC will give the researchers and practitioners in that area a greater opportunity to publish their papers and to exchange ideas with people in neighboring countries, and thus to expedite leveling up of their research and development.

**THEMES**

The conference will address the following principal themes:

Requirements Engineering, Specification & Design, Testing, Maintenance, CASE tools, Software Metrics, Software Process, Reuse, Reverse Engineering, Object Orientation, CSCW, Distributed Development, Information System Development, Project Management, Quality Assurance, and the other topics relevant to Software Engineering Field

**INSTRUCTIONS TO AUTHORS**

APSEC Program Committee solicits original technical papers and proposals for panel discussions. All contributions will be reviewed and evaluated based on originality, technical quality, and relevance to Software Engineering.

◦ **TECHNICAL PAPERS** should be no longer than 6000 words. All papers should include a separate cover sheet which provides the following information : the title, authors' names, postal and electronic mail addresses, telephone and fax numbers, a 200 words abstract, a list of keywords. Submitted papers should be written in English and clarify what is new and significant about the presented work. Accepted papers will be published in the conference proceedings.

◦ **PANEL PROPOSALS** should describe the title and a brief description (including an aim and a goal). The panel chair and panelists can be included in the proposal if the author has a plan. They should be no longer than two pages.

Six (6) copies of **FULL PAPERS** and **PANEL PROPOSALS** should be sent by **April 30, 1994** to a program chair :

Motoshi Saeki

Dept. of Electrical&Electronic Eng., Tokyo Institute of Technology

2-12-1 Ookayama, Meguro-ku, Tokyo 152, Japan

Tel. +81-(3)3726-1111 Fax.+81-(3)3729-1399 E-mail:saeki@cs.titech.ac.jp

**IMPORTANT DATES**

Submission Deadline : 30 April 1994

Acceptance Notification : 15 August 1994

Camera-ready Copy Due : 30 September 1994

## 第46回 全国大会奨励賞の表彰

第46回全国大会奨励賞は、去る10月6日～8日に鳥取大学工学部、教養部で開催された第47回全国大会の席上、会長から下記13君に授与されました。

本賞は今年3月開催の第46回全国大会（於工学院大学）の発表論文を対象に、奨励賞委員会（委員長 相磯副会長）において表彰規定にもとづき、総発表件数1067件中推薦のあった57名の候補者の中から27名を選び、さらに慎重審議の結果、13名が受賞候補者として推薦され、第378回理事会（平成5年7月）の承認を得て決定されたものです。

### 一般化LR法を用いた形態素解析と構文解析の統合（1B-6）

相澤 道雄君（正会員）

1966年生。1991年東京工業大学工学部電気電子工学科卒業。1993年同大学院理工学研究科情報工学修士課程修了。同年、キヤノン(株)入社。現在、同社情報システム研究所勤務。

### ファジィ理論を用いた輪郭抽出－画像の特性に合わせたメンバーシップ関数の自動生成－（2C-7）

伊東 直子君（学生会員）

1971年生。1993年慶応義塾大学理工学部計測工学科卒業。現在、同大学院理工学研究科計測工学専攻修士課程在学中。画像処理の研究に従事。

### 運動視差を用いた運動認識アルゴリズムによるCGモデルの操作（4C-3）

風間 久君（正会員）

1967年生。1990年慶応義塾大学理工学部電気工学科卒業。1992年東京工業大学大学院総合理工学研究科物理情報工学専攻修士課程修了。同年、(株)東芝入社。現在、同社研究開発センター情報通信システム研究所にてコンピュータビジョンの研究に従事。

### ペンの圧力・移動量等のオンラインデータを用いたサイン照合（7C-6）

川島 吉弘君（正会員）

1968年生。1991年上智大学理工学部電気・電子工学科卒業。1993年同大学院理工学研究科電気・電子工学専攻博士前期課程修了。同年、富士通(株)入社。現在、同社CADシステム部にて次世代ICADの研究開発業務に従事。

### ソフトウェア自動合成シェルSOFTEX/S(2)－文脈自由言語と多ソート項集合の同型写像－（6F-2）

佐藤 明良君（正会員）

1963年生。1986年慶応義塾大学理工学部計測工学科卒業。1988年同大学院計測工学専攻修士課程修了。同年日本電気(株)入社。現在、同社C&C研究所ソフトウェア研究部にてソフトウェア自動合成システムの研究開発に従事。

### オンライン手書き数式認識システム「METAH」の実現（4H-5）

村瀬 敦史君（正会員）

1967年生。1991年東京農工大学工学部数値情報工学科卒業。1993年同大学院理工学研究科電子情報工学専攻前期博士課程修了。同年(株)日立製作所入社。現在、同社システム開発研究所にてマルチメディアシステムの研究に従事。

### 日本語文章推敲支援ツール『推敲』における助詞「が」の抽出について（3L-2）

下園 幸一君（正会員）

1968年生。1991年九州大学工学部情報工学科卒業。1993年同大学院理工学研究科情報工学専攻修了。同年4月より同大学情報処理教育センター助手。日本語処理、ユーザインターフェース、計算機ネットワークなどの研究に従事。

### 蟻の行動ボタンを用いたテキスト分類の試み（4L-4）

安井 照昌君（正会員）

1964年生。1988年東京大学工学部計数工学科卒業。同年、三菱電機(株)入社。現在、同社中央研究所にて、テキスト情報ベースの研究に従事。

**DOACROSS 型ループにおける最適なデータ通信順序 (8L-4)**

山名 早人君 (正会員)

1964年生。1987年早稲田大学理工学部電子通信学科卒業。1989年同大学院理工学研究科修士課程修了。1993年同大学院理工学研究科博士後期課程修了。1989年～1993年同大学情報科学研究教育センター助手。1993年、通産省工業技院電子技術総合研究所入所。現在、同所情報アーキテクチャ部にて並列処理計算機、並列化コンパイラなどの研究に従事。電子情報通信学会、IEEE各会員。

**暗号化電子メール PEM(Privacy Enhanced Mail)の実装と課題 (1M-3)**

菊池 浩明君 (正会員)

1965年生。1988年明治大学工学部電子通信工学科卒業。1990年同大学院工学研究科博士前期課程修了。同年、(株)富士通研究所入所。現在、同所情報システムセンターにて、ネットワークセキュリティに関する研究に従事。電子情報通信学会、日本ファジィ学会各会員。

**統合ネットワーク管理システム MELMANAGER - OSI管理による LAN ドメインの管理 - (1N-3)**

三浦健次郎君 (正会員)

1965年生。1990年早稲田大学理工学部電気工学科卒業。同年、三菱電機(株)入社。コンピュータ製作所勤務。以来、OSI システム、LAN を中心とするネットワーク管理システムの設計・開発に従事。

**実体を持つプログラム言語「アルゴブロック」-思考と共同作業の道具として- (1Q-5)**

鈴木 栄幸君 (正会員)

1963年生。1986年青山学院大学文学部教育学科卒業。1988年慶応義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻修士課程修了。同年日本電気(株)入社。現在、同社情報メディア研究所にて、認知科学、教育システムの研究に従事。

**Virtual Officeのためのオブジェクト指向型オフィス記述モデルとプロトタイプシステムの実現 (4R-2)**

高田 秀志君 (正会員)

1968年生。1991年京都大学工学部情報工学科卒業。1993年同大学院修士課程情報工学専攻修了。同年三菱電機(株)入社。現在、同社産業システム研究所プラントシステム開発部にて産業用分散データベースシステムの研究に従事。

## 第48回 全国大会 予約案内

第48回（平成6年前期）全国大会の講演論文集・参加の予約を募集いたしますので、ぜひお申込みくださいますようご案内申し上げます。

日 程 平成6年3月23日（水）～25日（金）

会 場 東京理科大学理工学部（千葉県野田市山崎 2641）

論 文 集 B5判オフセット印刷 ※論文集価格は消費税・送料込です

■第1分冊……………予約価 4,000円（定価 6,000円）

情報科学一般

基礎理論及び基礎技術

ネットワーク

応用

■第2分冊……………予約価 4,000円（定価 6,000円）

人工知能及び認知科学

人工知能システム，パターン認識，生体情報処理，感性情報処理

データ処理

音声処理，画像・図形処理

■第3分冊……………予約価 4,000円（定価 6,000円）

人工知能及び認知科学

基礎理論，自然言語処理

データ処理

テキスト処理，マルチメディア処理

■第4分冊……………予約価 4,000円（定価 6,000円）

ソフトウェア

基礎理論，オペレーティングシステム，データベース・情報検索，プログラミング技術

信頼性と安全性

■第5分冊……………予約価 4,000円（定価 6,000円）

ソフトウェア

プログラム言語及び仕様記述言語，言語処理系，ツール

ソフトウェア工学

■第6分冊……………予約価 4,000円（定価 6,000円）

ハードウェア

システム

■セット（上記6冊一揃，講演者索引・カバー付）……………予約価24,000円（定価36,000円）

参加費（プログラム・参加章含む）：会 員 1,000円（賛助会員は正会員に準じます），  
非会員 2,000円，学生 無料

申込締切 平成6年2月10日（木）必着  
（締切後は予約扱いいたしませんので，ご了承ください）

第48回(平成6年前期)全国大会  
論文集・参加予約申込書

■申込締切：2月10日（木）必着

| 分 冊                     | 予 約 価 (円)   | 部 数 | 金 額 (円) |
|-------------------------|-------------|-----|---------|
| 第 1 分 冊                 | 4,000       |     |         |
| 第 2 分 冊                 | 4,000       |     |         |
| 第 3 分 冊                 | 4,000       |     |         |
| 第 4 分 冊                 | 4,000       |     |         |
| 第 5 分 冊                 | 4,000       |     |         |
| 第 6 分 冊                 | 4,000       |     |         |
| セット (6冊一揃)              | 24,000      |     |         |
| 参 加 費<br>(プログラム, 参加章含む) | 会 員 1,000   |     |         |
|                         | 非 会 員 2,000 |     |         |
| 合 計                     |             |     |         |

平成 年 月 日 (論文集価格は消費税・送料込)  
上記の通り予約いたします。

1. 代金は ☐郵便振替 (東京 5-83484), ☐銀行振込※ (該当にレ印)  
送金月日 月 日  
※全国大会専用銀行口座 (三菱銀行虎ノ門公務部「情報処理学会講習会」普通口座 No.0003774 )
2. 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通が必要です。  
〔注意〕団体名でまとめて送金される場合には, 別紙に送金内訳を記入して事務局までお送りください。  
通信欄:
3. 担当者名: Tel. ( ) - (ext. )
4. 申込先: 〒 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル27F  
(社) 情報処理学会 全国大会係 Tel. (03) 5322-3535 Fax. (03) 5322-3534  
..... (切りはなさないでください) .....
- (送本先住所) (楷書でハッキリ記入してください)  
〒

(機関名)

(氏 名) 殿

(Tel.)

〔部数〕(記入しないでください)  
論 ( 1 2 3 4 5 6 セ ) プ・参

## 「1994年情報学シンポジウム」開催について

## —マルチメディアと情報システム—

日 時 1994年1月12日(水)～13日(木) 9:00～17:10  
 場 所 日本学術会議講堂 〒106 東京都港区六本木7-22-34 (地下鉄千代田線、乃木坂駅下車)  
 共同主催 日本学術会議 情報学研究連絡委員会  
 学術文献情報研究連絡委員会  
 学術データ情報研究連絡委員会  
 情報工学研究連絡委員会  
 情報処理学会, 人工知能学会, 日本医学会, 日本化学会, 日本数学会, 日本地理学会, 日本物理学会,  
 情報知識学会, 日本生物物理学会  
 後 援 学術情報センター, 計測自動制御学会, 国際電信電話(株), 情報科学技術協会, 情報通信学会,  
 電子情報通信学会, 日本医療情報学会, 日本科学技術情報センター, 日本機械学会, 日本金属学会,  
 日本原子力学会, 日本材料科学会, 日本生化学会, 日本電信電話(株), 日本動物学会, 日本農学会,  
 日本分子生物学会, 日本分析化学会, 日本薬学会, 化学情報協会, ICOT  
 申込締切 1993年12月20日(月) 当日受付も歓迎しますが、資料不足の際は事前登録者を優先します。  
 参加費 (資料代として) 共催学協会員 7,000円 学生 2,000円 一般 10,000円  
 懇親会費 一律3,000円  
 当日出席できない方のために資料の郵送申込も受け付けております。  
 申込先 (社) 情報処理学会 情報学シンポジウム係  
 〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階  
 Tel.(03) 5322-3535 Fax.(03) 5322-3534

## プログラム

## 第1日目 1月12日(水)

組織委員長挨拶 (9:00～9:10)

尾関 雅則(日本学術会議情報学研究連絡委員会委員長)

セッション1 (招待講演1) (9:10～9:50)

座長: 細野 公男 ( '94 情報学シンポジウムプログラム委員長, 慶大)

情報から見たマルチメディアと情報システム

藤原 譲 (筑波大)

— 休 憩 (9:50～10:00) —

セッション2 情報システムへの要件 (10:00～12:05)

座長: 尹 博道 (富士通)

情報システムの社会的条件

山崎 久道 (三菱総研)

マルチメディアを利用した新しい医療の可能性について

海野 一則 (メディカルデザイン)

マルチメディア材料データベースシステムKINDの構築と運用

川添 良幸, 大野かおる,

余 京智, 中名生 充, 秋山 庸子, 伊藤 敏行, 和田 繁男, 森 倫子 (東北大)

土偶資料情報化研究と歴史資料情報の諸問題

八重樫純樹 (国立歴史民俗博物館)

複数の情報メディアにおける同一の科学情報の伝達: その同一性と差異

武者小路澄子, 野添 篤毅 (情報大)

— 昼 食 (12:05～13:00) —

セッション3 (招待講演2) (13:00～14:20)

座長: 阿部 英次 (豊橋技科大)

今後の情報システムと情報技術

三森 定道 (日立)

メディアの融合の視点から見たインタラクティブメディア

金村 公一 (日本システム開発研究所)

— 休 憩 (14:20～14:30) —

セッション4 基盤的概念 (14:30～15:45)

座長: 有川 節夫 (九大)

「かたち」と「ことば」

島尾 新 (東京文化財研究所)

「史料」(歴史資料)と歴史学的思考

永村 眞 (日本女子大)

多様性情報処理機構としての自然システムの基礎—複雑適応システムの評価問題—

米澤 保雄 (愛知技短大)

— 休 憩 (15:45～15:55) —

セッション5 モデリング, 自己組織化 (15:55～17:10)

座長: 中川 優 (NTT)

協調活動のフレームワークにおける自己組織化の考察

—自己組織化を促進させるシステムモデルの提案—

江谷 典子(富士ゼロックス情報システム)

クラス定義空間の多重化機能を持つオブジェクト指向マルチメディアプラットフォーム

前畑 淳也, 碓崎 賢一(九工大)

材料データシステムにおけるハイパーメディア化

岩田 修一, 河西 寛, 岩井 岳夫, 久保田晃弘(東大)

第2日目1月13日(木)

セッション6 (招待講演3)(9:00~9:40)

芸術と工学

座長: 八重樫純樹(国立歴史民俗博物館)

久保田晃弘(東大)

—休憩(9:40~9:50)—

セッション7 応用システム(9:50~11:55)

座長: 千村 浩靖(NEC)

ハイパーフレームを用いた知的マルチメディアCAIの開発

富士 隆, 谷川 健, 星原健二郎, 藤井 誠,

小銭 正尚(学習情報通信システム研究所), 三枝 武男(北海道教育大)

図を対話メディアとする発想支援システムD-ABDUCTOR

三末 和男, 杉山 公造(富士通研)

マルチメディア・コンピュータ・テスト・システム

永岡 慶三(神戸大)

パーソナルなデジタル映像制作システム「Video Power Tools」

飯島 泰裕(富士通研)

CSCW フレームワークの開発と公共分野の企画調整業務への応用

長谷川 保, 沼上 英雄, 澤田 順夫, 阿久津正明, 村永 哲郎(東芝)

—昼食(11:55~12:50)—

セッション8 (招待講演4)(12:50~14:10)

座長: 石塚 英弘(情報大)

マルチメディアと著作権(仮題)

名和小太郎(新潟大)

マルチメディア通信サービス

栗原 定見(NTT)

—休憩(14:10~14:20)—

セッション9 利用者インタフェース(14:20~15:35)

座長: 澤田 順夫(東芝)

3次元オブジェクトの機能合成システム—幾何情報を扱うための機能部品の提供—

岡田 義広, 田中 譲(北大)

フォーム・フロー・アーキテクチャ

—アクティブな書類を用いた企業システムの統合アーキテクチャ—

中川 光紀, 田中 譲(北大)

フレーム関係軸モデルに基づく情報群の自動組織化と視覚的ブラウジング

増田 佳弘, 植田 学, 石飛 康浩(富士ゼロックス)

—休憩(15:35~15:45)—

セッション10 基本方式処理技術(15:45~17:00)

座長: 中谷多哉子(富士ゼロックス情報システム)

Xウィンドウシステムのマルチメディア拡張

山本 英治, 碓崎 賢一(九工大)

ADPCM直接分割・結合方式の音声エディタへの適用

守屋 俊夫, 里山 元章, 米澤 恵, 柳 邦宏, 和歌森文男(日立)

知的作業支援基盤としての映像データベース 有澤 博, 由井 仁, 富井 尚志(横浜国大)

総括(17:00~17:10)

田中 和明('94情報学シンポジウム実行委員長, 日立)



「1994年情報学シンポジウム」  
参 加 申 込 書

平成5年      月      日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（該当するものを○で囲む）

共催学協会員    7,000円    一般    10,000円    学生    2,000円

○懇親会費（3,000円）      名

○資料のみ（参加資料代）      冊

○送金方法（該当するものを○で囲む）

合計      円を

a) 当日、会場受付にて支払います。

b) 現金書留で      月      日送金します。

c) 銀行振込（いずれも普通預金口座）で      月      日送金します。

1.第一勧銀新宿西口支店 2049562

2.三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

名義人 東京都新宿区西新宿1-24-1 社団法人 情報処理学会

送金人名義      様

\*請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書      通、見積書      通、納品書      通

請求先

注) 申込書は1枚1人としてください。（コピーで申し込むこと）

○申込先（Faxも可）・送金先

情報処理学会 シンポジウム係

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27F

Tel.(03) 5322-3535    Fax.(03) 5322-3534

.....  
(楷書でハッキリ記入してください)

申込者  
連絡先〒

機関・  
部課名

フリガナ  
氏 名

会員番号

殿 (      )

Tel.      (ext.      ) Fax.

## 第5回「連続セミナー93」の開催について

## ヒューマニティ時代への布石－アクセシビリティとエコ・エンジニアリング－

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。皆様の多数の参加をお願いします。

日 程 平成6年1月20日（木）

場 所 工学院大学3階312 教室（新宿区西新宿）

参加費 会員、賛助会員 18,000円 非会員 25,000円 学生 2,500 円

※参加費には資料代が含まれております。なお3日前までに連絡なき欠席の場合には参加費を徴収いたします。

## ~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~

セッション1（10：00～11：15）

「福祉とエレクトロニクス」

末田 統（鳴門教育大）

セッション2（11：30～12：45）

「高齢化社会へのステップ」

菱沼 従尹（寿命学研究会）

セッション3（14：00～15：15）

「地球環境と情報システム」

竹内 啓（東 大）

パネルディスカッション（15：30～17：30）

コーディネータ 矢島 敬二（東理大）

パネリスト 末田 統（鳴門教育大）、菱沼 従尹（寿命学研究会）

竹内 啓（東 大）、勝又 和夫（トコ情報処理センター）

## ◎送金方法

☆合計 \_\_\_\_\_ 円を

a) 当日、会場受付にて支払います

b) 銀行振込（いずれも普通預金口座）で

第一勧業銀行新宿西口支店 2049562

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

名義人 東京都新宿区西新宿 1-24-1 社団法人 情報処理学会

送金取扱銀行 \_\_\_\_\_ 銀行 \_\_\_\_\_ 支店

送金人名義 \_\_\_\_\_

\*請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通、見積書 通、納品書 通

請求先 \_\_\_\_\_

\*分割でのお支払いも可能です。

分割希望回数 \_\_\_\_\_ 回

送金予定 \_\_\_\_\_

申込先・送金先 情報処理学会連続セミナー係（Fax. も可）

〒160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27F

Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534

申込者

連絡先 〒

機関・

部課名

フリガナ

氏名

殿（会員番号

）

Tel.

(ext.

)

Fax.

（楷書でハッキリ記入してください）

## チュートリアル「ビジネスプロセス・リエンジニアリングと ソフトウェア技術」開催について

昨今関心を集めているビジネスプロセスリエンジニアリング（BPR）について解説し、企業経営、システム開発およびソフトウェア技術との相互関係を明らかにする。BPRは現状では言葉が先行し実践の内容がともなっていない面があるが、本チュートリアルでは具体的な事例をもとに情報システムと企業活動や経営戦略を密接に結び付けて検討する。また既存技術との関係も明らかにする。

日 時 平成6年2月15日（火） 9:20～17:45  
 会 場 日立新川崎システムプラザ（JR横須賀線新川崎駅より徒歩5分）  
 主 催 情報処理学会 情報システム研究会  
 参 加 費 研究会登録会員 6,000円 会員 10,000円 学生 3,000円 非会員 15,000円  
 （いずれも資料代を含む）  
 資料のみ 4,000円（送料込）

申込締切 平成6年1月28日（金）（定員80名になり次第締切らせていただきます）  
 申 込 先 〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27F  
 （社）情報処理学会 チュートリアル係  
 Tel.(03) 5322-3535 Fax.(03) 5322-3534

プログラム（予定）

開会の挨拶（9:20～9:30）

### 第1部

- ・基調講演：企業経営のリエンジニアリング（9:30～10:15）  
 〔概要 トップ創発型経営と組織創発型経営の場合を対照させて解説する〕  
 上野 滋（スタットラボ）  
 司会 魚田 勝臣（専修大）  
 高木 晴夫（慶大）
- ・リエンジニアリング技術の全体的動向（10:15～11:45）  
 〔概要 ソフトウェアリエンジニアリングを含めて、最近の技術動向を広く紹介する〕  
 竹下 亨（中部大）  
 -昼食（11:45～12:45）-

### 第2部

- ・BPR全体のフレームワーク紹介（12:45～13:30）  
 村山 徹，程 近智（アンダーセンコンサルティング）  
 〔概要 BPRと企業経営や情報システムとの関連など全体を俯瞰する〕
- ・BPRのための手法（13:30～14:15） 吉田 春樹（アーンストアンドヤングコンサルティング）  
 〔概要 コンサルティング会社が保存している手法や事例について紹介する〕
- ・日本におけるBPRの実践と方法論への展開（14:15～15:00）  
 森 茂郎，関 孝（ジェームスマーチン・アンド・カンパニー・ジャパン）  
 〔概要 日本における実施例とそれに基づいた方法論の構成について〕  
 -休憩（15:00～15:20）-

### 第3部

- ・ソフトウェア再利用を可能とする方法論とツール（15:20～16:05）  
 〔概要 データリバース、ルールリバースなどの手法を広く紹介する〕  
 司会 槻木 公一（JR総研）  
 堀内 一（日立）
- ・生産現場におけるシステム改善（16:05～16:50）  
 〔概要 システム改善の具体的な進め方について述べる〕  
 金沢 孝（慶大）
- ・情報システムのダウンサイジングの事例（16:50～17:35）  
 〔概要 システム再構築におけるパラダイムシフトについて解説する〕  
 志田 藤一（日本フルハーフ）

閉会の挨拶（17:35～17:45）

## チュートリアル「ビジネスプロセス・リエンジニアリングとソフトウェア技術」 参加申込書

標記チュートリアルの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（該当するものを○で囲む）

研究会登録会員 6,000円 会員 10,000円 学生 3,000円 非会員 15,000円

\*参加費には資料代が含まれています。

\*3日前までに連絡なき欠席の場合にも参加費を徴収させていただきます。

○資料のみ（4,000円、送料込）\_\_\_\_冊

○送金方法（該当するものを○で囲む）

合計\_\_\_\_円を

a) 当日、会場受付にて支払います。

b) 現金書留で \_\_\_\_月\_\_\_\_日送金します。

c) 銀行振込（いずれも普通預金口座）で

1.第一勧銀新宿西口支店 2049562

2.三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

名義人 東京都新宿区西新宿1-24-1 社団法人 情報処理学会

送金人名義 様

\*請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書\_\_\_\_通、見積書\_\_\_\_通、納品書\_\_\_\_通

請求先\_\_\_\_

注) 申込書は1枚1人としてください。（コピーで申し込むこと）

○申込先（Faxも可）・送金先

情報処理学会 チュートリアル係

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27F

Tel.(03) 5322-3535 Fax.(03) 5322-3534

.....  
(楷書でハッキリ記入してください)

申込者  
連絡先〒

機関・  
部課名

フリガナ  
氏 名

会員番号

殿 ( )

Tel. (ext. ) Fax.

## 「超編集・超流通・超管理のアーキテクチャ」シンポジウム開催について

標記シンポジウムを、下記の要領で開催いたします。参加ご希望の方は、期日までに必要事項を申込書に記入のうえお申し込みください。

日 時 平成6年2月17日(木) 8:30受付開始, 9:00~17:15  
18日(金) 9:00~18:15

会 場 工学院大学 3階 312教室  
(東京都新宿区西新宿1-24-2, JR新宿駅(西口)下車徒歩10分, Tel. (03)3342-1211)

主 催 情報処理学会 情報メディア研究会

参 加 費 会員 10,000円 非会員 15,000円 学生 2,000円 (いずれも論文集を含む)  
論文集のみ 5,000円 (送料込)

申込締切 平成6年1月31日(月)

申 込 先 〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27F  
(社) 情報処理学会「超編集・超流通・超管理のアーキテクチャ」シンポジウム係  
Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534

### － プ ロ グ ラ ム －

主 旨 「メディアとは、多様な情報の編集・流通・管理を統合的に行うためのアーキテクチャである」との仮説に基づき、情報メディアのアーキテクチャを模索する。

#### 第1日 2月17日(木)

セッション1: 編集・流通・管理のアーキテクチャとしてのメディア (9:00~10:00)

〔基調講演〕オーグメンテーション・メディアからミーム・メディアへ

田中 譲(北大)

セッション2: メディアと編集アーキテクチャ (10:00~17:15)

2-1 編集の工学 (10:00~11:00)

〔基調講演〕編集工学的世界観

松岡 正剛(編集工学研究所)

－ 休 憩 (11:00~11:15) －

2-2 デジタル技術は編集をどう変えたか? (11:15~13:15)

〔基調講演〕電子環境と空間認識－映画的思考から絵画的視覚へ－

戸田ツトム(編集工学研究所)

・映像の部品化

柴田 正啓(NHK)

－ 昼 食 (13:15~14:15) －

2-3 時空と行為の編集 (14:15~17:15)

・時空と行為の編集の枠組みとしての物語(仮題)

高橋 秀元(編集工学研究所)

・インタラクティブ・テレビ

斉藤 伸久(NHK)

・デジタルビデオ技術を用いた演出構造の分析(仮題)

渡辺 敏郎(ソニー)

#### 第2日 2月18日(金)

セッション3: メディアと流通アーキテクチャ (9:00~13:00)

〔基調講演〕超流通アーキテクチャ(仮題)

森 亮一(筑波工大)

・情報組織原理と情報の流通

金子 郁容(一橋大)

・オブジェクトの流通(仮題)

未 定

・ソフトウェア機能の流通と個人タスクへの統合

宇山 政志(パーソナル情報環境協会)

－ 昼 食 (13:00~14:00) －

セッション4: メディアと管理のアーキテクチャ (14:00~16:00)

〔基調講演〕トポスと共通感覚(仮題)

中村雄二郎

・題未定

野々垣 旦(富士通研)

－ 休 憩 (16:00~16:15) －

パネル討論: メディアと管理のアーキテクチャ (16:15~18:15)

司会 田中 譲(北大)

パネリスト: 松岡 正剛(編集工学研究所), 田中 克己(神戸大), 野々垣 旦(富士通研)

上林 憲行(富士ゼロックス)

「超編集・超流通・超管理のアーキテクチャ」シンポジウム  
参加申込書

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（該当するものを○で囲む）

正会員 10,000 円    非会員 15,000 円    学生 2,000円

\*参加費には論文集代が含まれています。

\*3日前までに連絡なき欠席の場合にも参加費を徴収させていただきます。

○論文集のみ（5,000円、送料込）\_\_\_\_冊

○送金方法（該当するものを○で囲む）

合計\_\_\_\_円を

a) 当日、会場受付にて支払います。

b) 現金書留で \_\_\_\_\_月\_\_\_\_日送金します。

c) 銀行振込（いずれも普通預金口座）で

1. 第一勧銀新宿西口支店 2049562

2. 三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

名義人 東京都新宿区西新宿1-24-1 社団法人 情報処理学会

送金人名義\_\_\_\_様

\*請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先\_\_\_\_\_

注) 申込書は 1枚 1人としてください。(コピーで申し込むこと)

○申込先 (Fax も可)・送金先

情報処理学会 シンポジウム係

〒 160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27F

Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者  
連絡先〒

機関・  
部課名

会員番号

フリガナ  
氏 名 殿 ( )

Tel. (ext. ) Fax.

## 「ソフトウェアプロセス・シンポジウム」論文募集

ソフトウェア開発のプロセスを正しく把握し、生産性や品質を向上する重要な要素として、「ソフトウェアプロセス」があります。ソフトウェアプロセスの記述やモデル化の方法、定義されたソフトウェアプロセスから開発支援環境の生成など、いろいろな研究が大学や研究所、企業などで行われています。また、ソフトウェアプロセスに基づいて、開発形態の評価や選定を行う手法が国際標準となりつつあり、今後、ソフトウェア開発の現場に大きな影響を及ぼすものと思われます。

ソフトウェア工学研究会では、ソフトウェアプロセスの研究、応用のこのような現実を踏まえ、標記のシンポジウムの開催を計画いたしました。このシンポジウムでは、ソフトウェアプロセスについての研究や国際標準化の動向のサーベイ、事例発表などをおして、現状を認識するとともに、今後の課題やその将来像について討論を予定しています。下記要領で論文を募集いたします。奮ってご応募ください。

日 時 平成6年5月26日(木)～27日(金)  
場 所 工学院大学(東京都新宿区西新宿)  
主 催 情報処理学会 ソフトウェア工学研究会  
協 賛 日本ソフトウェア科学会ソフトウェアプロセス研究会

テ ー マ 主なテーマは以下のとおりですが、必ずしもこれらに限りません。特に実的な発表を歓迎いたします

- ・ソフトウェアプロセスのモデル化と記述言語
- ・ソフトウェアプロセスに基づくソフトウェア開発環境
- ・ソフトウェアプロセスの定義と実際の開発現場への適用
- ・ソフトウェア品質保証の規格ISO9000-3とその適用
- ・ソフトウェアプロセスの評価とその改善モデルCMM
- ・ソフトウェアライフサイクルのプロセスモデル

### 論文応募要領

#### 1. 発表申込締切 平成6年1月10日(月)

論文発表ご希望の方は、アブストラクト(A4判用紙2枚)3部に通常の研究会発表申込書を添えてご提出ください。

#### 2. 採否通知 平成6年2月18日(金)

#### 3. カメラレディ原稿提出:平成6年4月18日(月)

和文または英文でA4判用紙10枚以内

### 実行・プログラム委員

|            |            |                      |
|------------|------------|----------------------|
| 青山 幹雄(富士通) | 佐伯 元司(東工大) | 松浦佐江子(管理工学研究所)       |
| 鯉坂 恒夫(京大)  | 坪谷 英昭(NEC) | 三ツ井欽一(日本IBM)         |
| 井上 克郎(阪大)  | 引地 信之(SRA) | 望月 純夫(三菱スペース・ソフトウェア) |
| 古宮 誠一(IPA) | 堀田 勝美(NTT) |                      |

### 連絡先・論文提出先

(社)情報処理学会 シンポジウム係

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階

Tel.(03) 5322-3535 Fax.(03) 5322-3534

## 論文賞候補の論文推薦のお願い

平成5年度論文賞の候補論文を推薦される会員は、下記事項を参考のうえ、論文の題名、著者名、掲載巻号、論文の専門分野、推薦理由および推薦者住所氏名を官製はがきに記入のうえ、本会論文賞係宛お送りください。

### 論文選定条件

#### 1. 選定範囲および推薦数

平成4年10月から平成5年9月までの間に「情報処理学会論文誌」(Vol.33, No.10~Vol.34, No.9) および「Journal of INFORMATION PROCESSING」(Vol.15, No. 3~No.4) に発表された論文の中から1編。

#### 2. 推薦資格

本会正会員に限ります。

#### 3. 締切日

平成6年1月31日(月)

### 表彰規程(抜粋)

#### 第3章 論文賞

第9条 論文賞は、本学会の機関誌に発表された論文のうち、とくに優秀なものを選び、その著者に贈呈する。

第10条 表彰する論文は、原則として毎年4編とするが、編数は事情により変更することができる。

第11条 選定の対象となる論文は、表彰の時期の前々年の10月から前年の9月までの間に発表されたものであることを要する。

第12条 表彰する論文が共著の場合は、共著者全員を表彰する。

第13条 論文賞は、同一著者に重ねて授賞しても差支えない。

第14条 論文賞は、賞状、賞牌および賞金とする。賞金は、論文一編につき50,000円とする。



## 情報処理学会論文誌「グループウェア」特集号への論文投稿のご案内

### 論文誌編集委員会

情報処理学会の論文誌において下記の要領で「グループウェア」をテーマに特集号を企画しております。当学会のグループウェア研究会主催の研究会・シンポジウムで発表された論文、その他「グループウェア」に関連した論文を広く会員から募集しますので、奮ってご投稿くださいますようご案内いたします。

### 投稿要領

|         |                                                                            |
|---------|----------------------------------------------------------------------------|
| 論文の執筆要領 | 「情報処理学会誌」原稿執筆案内によります。<br>現在の論文投稿規約は学会誌1993年1月号に、規約の一部改訂が1993年8月号に掲載されています。 |
| 査読手続き   | 通常の論文誌投稿論文と同一です。                                                           |
| 投稿締切り   | 1994年8月31日<br>投稿論文には、「グループウェア特集」と朱書してください。                                 |
| 採否通知    | 1995年2月末                                                                   |
| 特集号予定   | 1995年5月号                                                                   |

本特集号への投稿論文は、一般投稿論文と全く同じ要領で査読手続きが行われます。  
採録された論文は、一括掲載されるという利点があります。



情報処理学会論文誌別刷価格の改訂について

情報処理学会論文誌別刷価格を、平成6年1月事務局受付け分より下記のように改訂いたしますので、よろしくご了承ください。

記

単位：円

| ページ数<br>部数 | 1      | 2      | 3      | 4      | 5      | 6      | 7      | 8       | 9       |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|
| 100        | 11,000 | 22,000 | 33,000 | 44,000 | 55,000 | 66,000 | 86,000 | 106,000 | 136,000 |
| 200        | 12,000 | 23,000 | 34,000 | 45,000 | 56,000 | 67,500 | 87,500 | 107,500 | 137,500 |
| 300        | 13,000 | 24,000 | 35,000 | 46,000 | 58,000 | 69,000 | 89,500 | 109,500 | 139,500 |
| 400        | 14,000 | 25,000 | 36,000 | 47,000 | 59,500 | 70,500 | 91,500 | 111,500 | 141,500 |
| 500        | 15,000 | 26,000 | 37,000 | 48,000 | 61,000 | 72,000 | 93,500 | 113,500 | 143,500 |

なお、8ページを越えるときは100部の場合で、1ページにつき30,000円加算する。カラーの場合は1ページ当たり通常の4ページ分と換算する。



平成5年度会費，論文誌購読費の納入について

本年度の会費および購読費未納の方には、11月中旬に郵便振替用紙を発送いたしました。会費および購読費は前納を原則としており、すでに多くの方々にはご納入いただいております。会費納入の督促は、手数や郵便料がかさみ大きな負担となっておりますので、まだ未納の方は早急にご納入くださいますようお願いいたします。

納入が遅れますと、来年2月の平成6年度役員選挙投票用紙の発送も停止いたしますので、ご留意ください。

〔自動振替納入利用の方へ〕

すでに個別にご連絡いたしました。去る7月27日の振替日に残高不足等で振替未済の方は、郵便振替または銀行振込等により、早急にご納入ください。

自動振替納入中止のご連絡は、事務局会員係までお願いいたします。

なお、振替口座を変更される方は、11月号会告欄に「預金口座振替依頼書」を添付いたしましたのでご利用ください。平成6年度会費から新規に自動振替を希望する正会員（一括扱いの会員は除く）の方も、本用紙によりお申込みください。その際、申込締切は平成6年2月10日（木）事務局必着（引落日：平成6年3月28日（月））としますが、なるべく早目をお願いいたします。

会  
告

## 書評・ニュース募集のお知らせ

情報処理学会文献ニュース小委員会では、学会誌「情報処理」に掲載する書評、およびニュースを広く会員の皆さまから募集します。

### 1. 募集対象

つぎの2種類の記事について、原稿を募集します。

- a) 書 評 過去2年間に出版された、本学会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評。
- b) ニュース 情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など、時事性が高く、本学会員に広く知らせる価値のある話題。

### 2. 応募資格

原則として本学会員に限ります。

### 3. 応募の手続き

原稿は、本会所定の原稿用紙か、ワープロ等を用いる場合はA4判の用紙に22字×44行の字詰めで書いて、下記応募先あてにお送りください。

#### 1) 表 題

書評の場合は、著者名、書名、ページ数、発行所、発行年、価格、ISBN、を書く。

ニュースは、見出しを書く。

書評、ニュースの別を左肩に書く。

#### 2) 筆者名・所属・筆者連絡先

連絡先（住所、Tel、e-mail等）の記載を忘れずに。

#### 3) 本 文

書評は1900字前後で、ニュースは1000字前後で書く。

#### 4) (必要であれば) 参考文献、付録、図、表

#### 5) 筆者の自己紹介

氏名、会員の種別、経歴などを書く。(投稿時に写真は不要)

詳しくは「情報処理学会機関誌原稿執筆案内」(1993年1月号掲載)を参照してください。

### 4. 原稿の取扱い

投稿された原稿は文献ニュース小委員会で審査し、採否を決定します。採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります。書評の場合は評者の写真を掲載しますので、掲載決定後に写真を送っていただくことになります。

### 5. 問合せ・応募先

原稿用紙の購入先、原稿の送付先、および問合せ先は次のとおりです。

(社) 情報処理学会 文献ニュース小委員会係

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27F

Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534 e-mail: matumoto@ipsj.or.jp

社団法人日本工学会主催  
**第23回国際会議のための準備セミナー**  
 ー英語によるプレゼンテーションの実際ー

国際社会の中で、日本人として、講演、研究発表、新規プロジェクトの説明等、英語で発表する機会が増えてきております。

このセミナーでは、外国人を前にすぐれたプレゼンテーションを行うための効果的な説得の技術と方法を講義と実際のプレゼンテーションの体験をとおして習得します。

**1. 対象者**

- ・国際会議で発表する予定のある方
- ・英語によるプレゼンテーション能力の向上を図りたい方

- 2. 日 時** 1994年2月27日(日) 9:00~20:00  
 28日(月) 9:00~17:00  
 (集合 2月26日(土) 18:00現地)

- 3. 講 師**
- ・(社)日本工学会 理事
  - ・(株)ヒューテック代表取締役 肥田 良夫
  - ・その他(国際会議参加経験者からの話題)

- 4. 会 場** 海外職業訓練センター研修施設  
 (千葉市美浜区ひび野 1-1 Tel. (043)-276-0211, JR京葉線, 海浜幕張駅下車, 徒歩5分)

- 5. 参加費** 80,000円(資料代, 懇親会費等を含む)

- 6. 宿泊費** 18,000円(2泊, 食事付)

- 7. 定 員** 18名

**8. カリキュラム**

- (1) 国際会議の概要 1) 参加の目的 2) 参加者の心掛け 3) 日本人に多い問題点の整理
- (2) 国際会議参加の準備
  - 1) オーラルペーパーの書き方 2) 時間配分の心得
  - 3) AVの用意と利用法
- (3) プレゼンテーションの実際
  - 1) 話し方(視線・発声・姿勢) 2) マイク・AVの使い方
  - 3) 質疑応答の処理 4) 表現
- (4) プレゼンテーションの評価と練習法
  - 1) 自己評価 2) 他者評価 3) 効果的練習法

**9. 参加申込方法**

- (1) 参加申込を希望される方は下記に詳細パンフレットをご請求ください。
- (2) 申込締切は平成6年2月15日(火)日本工学会必着です。

- 10. 請求・申込先** 〒107 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル  
 (社)日本工学会 Tel. (03)3475-4621, 5618 Fax. (03)3403-1738

## 本会協賛等の行事案内\*

### <国内会議>

講習会「応用のためのファジィ理論の基礎」

平成6年1月20日(木)～21日(金)

東京・明治大学

平成5年度第1回シンポジウム「情報の価値とネットワーク」

平成6年1月26日(水)

東京・工学院大学

第18回「産業用ロボット・フィルムフェスティバル」

平成6年3月4日(金)

東京・日刊工業新聞社

平成6年3月11日(金)

大阪・コスモ証券

マルチメディアと映像処理シンポジウム'94

平成6年4月21日(木)～22日(金)

東京工業大学

ロボティクス・メカトロニクス講演会 '94

平成6年6月30日(木)～7月1日(金)

兵庫県民会館

第24回信頼性・保全性シンポジウム

平成6年7月6日(水)～8日(金)

東京・JAビル

3次元画像コンファレンス '94

平成6年7月7日(木)～8日(金)

東京・工学院大学

### <国際会議>

第2回自律分散型ロボットシステムに関する国際シンポジウム

1994年7月14日～15日

埼玉・理化学研究所

3rd IEEE Int'l. Workshop Robot and Human Communication

1994年7月18日～20日

名古屋大学

\*詳細は本号会議案内欄参照



## シンポジウム、講習会、全国大会、学会誌、論文誌の残部購入について

開催年月、書名、希望部数、申込者氏名、送付先、電話番号、郵便番号および支払方法を明記し書面にて事務局図書係までお申込みください。その際には、あらかじめ、電話等で残部の確認をお願いします。

残部状況：シンポジウム・講習会（90年版より）、全国大会（第40回より）、学会誌・論文誌（93年版のみ、92年版以前は文生書院にて購入のこと）

残部資料のないもののコピーサービスに関しましては日本科学技術情報センター（JICST）へお問合せください（有料）。なお、国立国会図書館においても閲覧、コピーすることができます。

|                |                          |                    |
|----------------|--------------------------|--------------------|
| * 文生書院         | 〒113 東京都文京区本郷6-16-3 幸伸ビル | Tel.(03) 3811-1483 |
| * 日本科学技術情報センター | 〒100 東京都千代田区永田町2-5-2     | Tel.(03) 3581-6411 |
| * 国立国会図書館      | 〒100 東京都千代田区永田町1-10-1    | Tel.(03) 3581-2331 |

|                |                                       |
|----------------|---------------------------------------|
| (社) 情報処理学会 図書係 | 〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27F     |
|                | Tel.(03) 5322-3535 Fax.(03) 5322-3534 |

## 支部だより

## 関西支部 第2回ソフトウェア研究会

日 時 平成6年1月18日(火) 13:00~17:00  
 会 場 (財)関西情報センター会議室(大阪市北区梅田 1-3-1-800, 大阪駅前第1ビル8階)  
 定 員 約50名(申込順)  
 参 加 費 ソフトウェア研究会メンバーの方 不要  
 メンバ以外の方 600円  
 テーマ 「グループウェア」  
 プログラム 「グループウェアの研究動向」 向山 博(日本情報処理開発協会)  
 「富士ゼロックス社におけるグループウェア」(仮題) 桂林 浩(富士ゼロックス)  
 「オブジェクト指向データベースによるソフトウェア・プロジェクト管理システム」 古宮 誠一(情報処理振興事業協会)  
 「マルチメディア分散会議システム MERMAID -グループウェアのプラットフォーム」 前野 和俊(NEC)  
 「マルチメディアソフトウェア開発環境 ActivePageにおけるグループ機能」 下地 達也(松下電器)  
 問合せ先 〒 530 大阪市北区梅田 1-3-1-800, 大阪駅前第1ビル8階, (財)関西情報センター内  
 情報処理学会関西支部 Tel. (06)346-2543

## 関西支部セミナー「2000年に向けたプロセッサ技術の動向と展望について」

日 時 平成6年1月21日(金) 10:00~16:15  
 会 場 (社)中央電気倶楽部(大阪市北区堂島 2-1-25 Tel. (06)345-6351)  
 プログラム 「2000年に向けたプロセッサ関連技術の動向と展望(概論)」(仮題)  
 「ニューロプロセッサの動向と展望-人口網膜の実現に向けて-」 岩村 淳(東芝)  
 「高速画像処理プロセッサの動向と展望」 久間 和生(三菱電機)  
 「超高性能ワークステーションとRISCプロセッサの動向と展望」 榎本 忠儀(中央大)  
 「低消費電力プロセッサ技術の動向と展望」 (交渉中)  
 江口 静夫(NEC)  
 参 加 費 会員10,300円,非会員11,330円,学生会員5,150円  
 問合せ先 〒 530 大阪市北区梅田 1-3-1-800, 大阪駅前第1ビル8階, 関西情報センター内  
 情報処理学会関西支部 Tel. (06)346-2543

## 複写される方に

本誌(書)に掲載された著作物は、政令が指定した図書館で行うコピーサービスや、教育機関で教授者が講義に利用する場合等、著作権法で認められた例外を除き、著作権者に無断で複写すると違法になります。そこで、本著作物を合法的に複写するには、著作権者から複写に関する権利の委託を受けている次の団体と、複写をする人またはその人が所属する企業・団体等との間で、包括的な許諾契約を結ぶようにしてください。

学協会著作権協議会内 日本複写権センター支部  
 〒107 東京都港区赤坂9-6-42-704  
 Tel. (03)3475-4621・5618  
 Fax. (03)3403-1738

## Notice about Photocopying

In the U. S. A., authorization to photocopy the copyrighted publication or parts thereof for internal or personal use, or the internal or personal use of specific clients, is granted by Information Processing Society of Japan, provided that designated fees are paid directly to Copyright Clearance Center. For those organizations that have been granted a photocopy license by CCC, a separate system of payment has been arranged.

Copyright Clearance Center, Inc.  
 27 Congress St.  
 Salem, MA 01970  
 Phone 508 744 3350  
 Fax. 508 741 2318

## 教官募集



### ○四條畷学園女子短期大学

募集人員 教授、助教授および講師若干名  
 担当科目 実務へのコンピュータ応用のための情報処理関連講義  
 応募資格 博士号取得者で研究上の業績があると認められる方。プログラミングの講義、演習担当可能な方が望ましい  
 着任時期 委細面談  
 提出書類 履歴書、研究業績リスト、主要論文別刷（コピー可）  
 応募締切 平成6年1月31日  
 送付先 〒574 大東市学園町 6-45 四條畷学園女子短期大学事務長 金田一郎  
 問合せ先 学長 山口益郎 Tel. (0720)79-7231  
 Fax. (0720)76-4515

### ○高エネルギー物理学研究所

募集人員 助教授1名  
 所属 データ処理センター  
 スーパーコンピュータシステムの整備運用について中核となってあたるとともに、関連する研究開発に従事していただきます。  
 着任時期 決定後できるだけ早い時期  
 提出書類 履歴書（公募番号：センター93-1と着任可能時期を

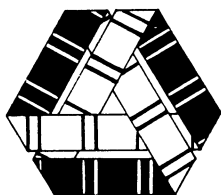
明記）、研究業績リスト、主要論文別刷（5編以内）、着任後の抱負（A4判1枚程度）、推薦書または意見書

応募締切 平成6年1月31日  
 送付先 〒305 つくば市大穂 1-1  
 高エネルギー物理学研究所長 菅原寛孝  
 「教官公募関係」と朱書きし書留  
 問合せ先 総括主幹 平林洋美 Tel. (0298)64-5451  
 管理部庶務課人事二係 Tel. (0298)64-5118

### ○理化学研究所

募集人員 職員（研究員および研究員補）1名  
 所属 電子計算機室  
 専門分野 情報科学、計算機科学、計算科学、計算工学、その他計算機を必要とする理工学／研究支援、研究開発  
 着任時期 平成6年4月  
 応募資格 大学卒以上（含む卒業見込）で、32歳以下の方、新しい仕事を開拓する意欲のある方、コンピュータ使用に関する経験のある方が望ましい。  
 提出書類 履歴書、論文リスト、主要論文別刷、研究歴  
 応募締切 平成6年1月15日  
 問合せ先 〒351-01 和光市広沢2-1 Tel. (048) 462-1111  
 理化学研究所 Tel. (048) 462-1111  
 電子計算機委員長 谷畑勇夫 (ext.4211)  
 電子計算機室長 相馬 嵩 (ext.3181)  
 その他 理化学研究所では現在、超並列スーパーコンピュータの導入を進めており、来年度より多くの理工学分野での使用が可能となります。今後、このスーパーコンピュータの維持の中心となり、このスーパーコンピュータを効率よく使用できる環境の整備をすることおよびスーパーコンピュータを使用した研究の進歩に貢献していただける方を求めています。

## 会議案内



各会議末のコードは、整理番号です（\*：本年既掲載分、\*\*：昨年既掲載分）。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手72円を同封のうえ、請求ください。（国内連絡先が記載されている場合は除く。）

1. 開催日、2. 会場、3. 問合せ先、4. その他

## 国際会議

### 第9回「データベース国際セミナー」(072)

1. 1994年1月26日（水）
2. 日経ホール（東京都千代田区大手町）

3. (財) データベース振興センター 企画部国際セミナー係  
Tel. (03) 3459-8581 Fax. (03) 3432-7558
4. 参加費：一般20,000円、会員18,000円  
主催会員10,000円

### DARS '94 - 第2回自律分散型ロボットシステムに関する国際シンポジウム (073)

1. 1994年7月14日～15日
2. 理化学研究所（埼玉県和光市広沢）
3. 理化学研究所化学工学研究室 浅間 一  
Tel. (048) 462-1111 (ext.3144) Fax. (048) 462-4658
4. アブストラクト締切：1994年2月28日

### RO-MAN '94 NAGOYA - 3rd IEEE Int'l Workshop on Robot and Human Communication (074)

1. July 18-20, 1994
2. Nagoya, Japan
3. 名古屋大学工学部機械情報システム工学科 福田 敏男  
Tel. (052) 781-5111 (ext.4478) Fax. (052) 781-9243  
e-mail: fukuda@mein.nagoya-u.ac.jp
4. アブストラクト締切：1994年2月15日

### ICSLP 94 - 音声言語処理国際会議 (075)

1. 1994年9月18日（日）～22日（木）

2. パシフィコ横浜 (横浜市)  
 3. 早稲田大学理工学部電気工学科 小林 哲則  
 e-mail: icslp94-info@tk.elec.waseda.ac.jp  
 4. アブストラクト送付期限: 1994年2月28日  
 投稿先: 〒180 武蔵野市緑町3-9-11  
 NTT 基礎研究所情報科学部 寛 一彦

### IEEE 3rd Int'l. Conf. on Software Reusability(076)

1. 1994年11月1日~4日  
 2. Rio de Janeiro, Brazil  
 3. NEC C & Cソフトウェア開発グループ 松本 正雄  
 Tel.(03) 5476-1090 Fax.(03) 5476-1095  
 Internet: matumoto@ccs.mt.nec.co.jp  
 4. 論文締切: 1994年2月1日  
 論文送付先: Prof. Don Batory, Department of Computer Science, Univ. of Texas at Austin, 2. 124 Taylor Hall Austin, Texas 78712 USA  
 e-mail: batory@cs.utexas.edu

### 国内会議

#### 講習会「応用のためのファジ理論の基礎」

1. 平成6年1月20日(木)~21日(金)  
 2. 明治大学百周年記念会館 (東京)  
 3. 日本ファジ学会  
 Tel.(045) 212-8253 Fax.(045) 212-8256  
 4. 参加費: 会員 30,000円, 学生会員 10,000円  
 非会員 45,000円, 学生 15,000円

#### 平成5年度第1回シンポジウム「情報の価値とネットワーク」

1. 平成6年1月26日(水)  
 2. 工学院大学 (東京都新宿区西新宿)  
 3. 経営情報学会事務局  
 Tel.(03) 3348-9136 Fax.(03) 5322-3602  
 4. 参加費: 会員 4,000円, 非会員 6,000円  
 学生会員 2,000円, 学生 3,000円

#### 第18回「産業用ロボット・フィルムフェスティバル」

- 1.2. 東京: 平成6年3月4日(金)  
 日刊工業新聞社

大阪: 平成6年3月11日(金)  
 コスモ証券

3. (社) 日本産業用ロボット工業会  
 Tel.(03) 3434-2919 Fax.(03) 3578-1404

#### マルチメディアと映像処理シンポジウム'94

1. 1994年4月21日(木)~22日(金)  
 2. 東京工業大学百年記念館 (目黒区大岡山)  
 3. (社) テレビジョン学会  
 Tel.(03) 3432-4677 Fax.(03) 3432-4675  
 4. 講演申込締切: 1994年1月20日(木)

#### ロボティクス・メカトロニクス講演会'94 -人間と調和した機械システム-

1. 平成6年6月30日(木)~7月1日(金)  
 2. 兵庫県民会館 (神戸市)  
 3. (社) 日本機械学会  
 Tel.(03) 3379-6781 Fax.(03) 3379-0934  
 4. 講演申込締切: 平成6年2月4日(金)

#### 第24回信頼性・保天性シンポジウム

1. 平成6年7月6日(水)~8日(金)  
 2. JAビル (東京・大手町)  
 3. (財) 日本科学技術連盟・第二事業部 R & MS 係  
 Tel.(03) 5379-1222  
 4. 参加費: 46,500円

#### 3次元画像コンファレンス'94-3D Imaging Conf.'94-

1. 1994年7月7日(木)~8日(金)  
 2. 工学院大学新宿校舎 (東京都新宿区西新宿)  
 3. (社) テレビジョン学会  
 Tel.(03) 3432-4677 Fax.(03) 3432-4675  
 4. 参加費: 会員 10,000円, 非会員 13,000円, 学生 5,000円

#### OEC'94-第5回オプトエレクトロニクスコンファレンス

1. 1994年7月13日(水)~15日(金)  
 2. 幕張メッセ (千葉市中瀬)  
 3. (財) 日本学会事務センター OEC事務局  
 Tel.(03) 5814-5800 Fax.(03) 5814-5823  
 4. 講演申込締切: 1994年2月18日

### 編集室



#### 会員の声

(10月号特集「自然言語処理技術の応用」について)  
 特集の記事に対していつも思うことですが、どういったレベル  
 それに対する知識量の)の人を対象にしているのか曖昧にした  
 ま書きいたものが多いように感じます。全体的にもっと分かりや  
 い表現を用い、専門用語の多用は避けてほしいと思います。  
 (田中圭介 北陸先端大)

・「自然言語処理」についていまだあまり意識したことがな  
 かったが、この特集で全体のイメージがおぼろ気ながらつかめた。  
 今回に限らず特集記事はある程度のタイムリさは必要で、少々内  
 容が高度になろうとも、その時点での問題点や将来の方向を整理  
 しておけば、後日読み返したときに大変参考になるだろうと思  
 う。したがって、ある程度内容が難しくなるのはやむをえないと  
 考える。  
 (重道 潔 さくら銀行)

(その他)

・最近になって、私が大切にしている記事は何か? 考えてみる気  
 になった。

毎号最初に目を通すのが「会告」である。

①まず目次を見る ②「研究発表会開催通知」で、自分のスケ  
 ジュールを確認する ③「本会協賛等の行事案内」に目を通す  
 ④そして特集などの記事を読む、これが長年の習慣になっている  
 わけで、私は「会告」を大切にしていることに気づく。

(矢島輝邦 日立ソフトウェアエンジニアリング)

## 平成5年度役員

|         |                       |       |       |  |
|---------|-----------------------|-------|-------|--|
| 会 長     | 水野 幸男                 |       |       |  |
| 副 会 長   | 相磯 秀夫                 | 平栗 俊男 |       |  |
| 専 任 理 事 | 磯崎 澄                  | 稲垣 康善 | 齊藤 忠夫 |  |
|         | 土居 範久                 | 箱崎 勝也 | 八賀 明  |  |
|         | 林 弘                   | 坂 和磨  | 松永 伍生 |  |
| 後 任 理 事 | 雨宮 真人                 | 安西祐一郎 | 河岡 司  |  |
|         | 久保 隆重                 | 鈴枝 進  | 山本 昌弘 |  |
|         | 弓場 敏嗣                 | 米田 英一 |       |  |
| 幹 事     | 竹下 亨                  | 高橋 延匡 |       |  |
| 支 部 長   | 松永吉弘 (関西), 奈良 久 (東北)  |       |       |  |
|         | 有川節夫 (九州), 山田 博 (東海)  |       |       |  |
|         | 宮本衛一 (北海道), 小林康浩 (中国) |       |       |  |
|         | 野田松太郎 (四国), 武部 幹 (北陸) |       |       |  |

|       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 杉本 重雄 | 宝木 和夫 | 田中 衛  |
| 茶園 利昭 | 辻 秀一  | 鶴岡 邦敏 |
| 富井 規雄 | 富安信一郎 | 沼尾 雅之 |
| 馬場 健  | 廣瀬 正  | 深海 悟  |
| 水谷 博之 | 宮本 義昭 | 森田 啓義 |
| 山崎重一郎 | 吉野 利明 |       |

## 文献ニュース小委員会

|         |        |        |        |  |
|---------|--------|--------|--------|--|
| 委 員 長   | 本多 弘樹  |        |        |  |
| 副 委 員 長 | 内平 直志  |        |        |  |
| 委 員     | 合田 憲人  | 赤津 雅晴  | 浦本 直彦  |  |
|         | 榎本 暢芳  | 小川 知也  | 小野寺民也  |  |
| *地方在住委員 | 甲斐 宗徳  | 小林 隆   | 田中みどり  |  |
|         | 谷 聖一   | 堤 富士雄  | 坪井 俊明  |  |
|         | 鳥谷 憲司  | 中島 已範  | 野尻 徹   |  |
|         | 野村 真吾  | 林 良彦   | 平澤 茂樹  |  |
|         | 広田源太郎  | 堀川 隆   | 松本 一教  |  |
|         | 味園 真司  | 宮内 美樹  | 山口 義一  |  |
|         | 山下 義行  | 李 相喆   | 渡辺 美樹  |  |
|         | *佐伯 慎一 | *炭田 昌人 | *竹澤 寿幸 |  |
|         | *垂水 浩幸 | *乃万 司  | *藤井 茂樹 |  |
|         | *村上 昌己 | *横尾 真  | *渡部 卓雄 |  |

## 学会誌編集委員会

|         |              |       |       |  |
|---------|--------------|-------|-------|--|
| 委 員 長   | 箱崎 勝也        |       |       |  |
| 副 委 員 長 | 弓場 敏嗣        |       |       |  |
| 委 員     | (基礎・理論分野)    |       |       |  |
|         | 長尾 確         | 井宮 淳  | 相田 仁  |  |
|         | 相場 亮         | 安部 直樹 | 岩崎 一彦 |  |
|         | 大石 進一        | 大竹 和雄 | 大野 和彦 |  |
|         | 岡本 龍明        | 梶原 信樹 | 栗田多喜夫 |  |
|         | 小池 英樹        | 榊原 康文 | 塩谷 勇  |  |
|         | 島津 明         | 築添 明  | 土田 賢省 |  |
|         | 手塚 集         | 東条 敏  | 沼尾 正行 |  |
|         | 平川 秀樹        | 松井 正一 | 村上 昌己 |  |
|         | 横内 寛文        | 吉田 幸二 |       |  |
|         | (ソフトウェア分野)   |       |       |  |
|         | 坂下 善彦        | 深澤 良彰 | 荒野 高志 |  |
|         | 飯島 正         | 石川 博  | 岩崎 英哉 |  |
|         | 内平 直志        | 宇都宮直樹 | 大澤 暁  |  |
|         | 甲斐 宗徳        | 北川 博之 | 岸 知二  |  |
|         | 関 俊文         | 高野 陽介 | 瀧口 伸雄 |  |
|         | 滝沢 誠         | 瀧塚 孝志 | 谷口 秀夫 |  |
|         | 寺田 実         | 中澤 修  | 本多 弘樹 |  |
|         | 松田 裕幸        | 真鍋 義文 | 宮崎 聡  |  |
|         | 森下 真一        | 吉田 和幸 | 脇田 建  |  |
|         | (ハードウェア分野)   |       |       |  |
|         | 中田登志之        | 西田 健次 | 飯島 純一 |  |
|         | 伊藤 徳義        | 今井 明  | 小倉 敏彦 |  |
|         | 柏山 正守        | 北嶋 弘行 | 小池 汎平 |  |
|         | 佐藤 政生        | 佐藤洋一郎 | 清水 茂則 |  |
|         | 清水 俊之        | 白男川幸郎 | 曾和 将容 |  |
|         | 瀧 和男         | 武田 保孝 | 中村 宏  |  |
|         | 速水 治夫        | 原田武之助 | 平岡 孝  |  |
|         | 平田 圭二        | 松永 裕介 | 村上 和彰 |  |
|         | 和田 幸一        |       |       |  |
|         | (アプリケーション分野) |       |       |  |
|         | 金子 俊一        | 岡田 謙一 | 五十嵐 智 |  |
|         | 稲岡 則子        | 上杉 利明 | 江原 暉将 |  |
|         | 大山 敬三        | 勝岡 義博 | 川上 英  |  |
|         | 喜多 泰代        | 澤井 秀文 | 菅原 研次 |  |

## 論文誌編集委員会

|                     |                |            |       |  |
|---------------------|----------------|------------|-------|--|
| 委 員 長               | 土居 範久          |            |       |  |
| 副 委 員 長             | 雨宮 真人          |            |       |  |
| 委 員                 | (基礎グループ)       |            |       |  |
| +アドバイザ・テクニカル・ライティング | 小柳 義夫          | 吉原 郁夫      | 稲垣 康善 |  |
|                     | 今井 浩           | 岩間 一雄      | 鶴岡 正二 |  |
|                     | 翁長 健治          | 勝野 裕文      | 佐々木建昭 |  |
|                     | 佐藤 雅彦          | 杉原 正顯      | 都倉 信樹 |  |
|                     | 西関 隆夫          | 三井 斌友      | 山本 彰  |  |
|                     | (ソフトウェアグループ)   |            |       |  |
|                     | 伊藤 潔           | 宮崎 収兄      | 石畑 清  |  |
|                     | 伊藤 貴康          | 牛島 和夫      | 上村 務  |  |
|                     | 上林 彌彦          | 清水 康       | 清水謙多郎 |  |
|                     | 白井 英俊          | 白井 良明      | 遠山 元道 |  |
|                     | 徳田 雄洋          | 鳥居 宏次      | 牧野 武則 |  |
|                     | 益田 隆司          | 松村 一夫      | 宮本 衛市 |  |
|                     | 安村 通晃          | 米崎 直樹      |       |  |
|                     | (ハードウェアグループ)   |            |       |  |
|                     | 山口 喜教          | 天野 英晴      | 阿江 忠  |  |
|                     | 笠原 博徳          | 菅 隆志       | 木村 康則 |  |
|                     | 後藤 厚宏          | 島崎 眞昭      | 瀧 和男  |  |
|                     | 田中 輝雄          | 田中 譲       | 富田 眞治 |  |
|                     | 中田登志之          | 安浦 寛人      |       |  |
|                     | (アプリケーショングループ) |            |       |  |
|                     | 大岩 元           | 築山 俊史      | 浅野正一郎 |  |
|                     | 池田 克夫          | 魚田 勝臣      | 大田 友一 |  |
|                     | 黒須 正明          | 白鳥 則郎      | 高橋 延匡 |  |
|                     | 竹林 洋一          | 鳥脇純一郎      | 日高 達  |  |
|                     | 山下 正秀          | 横井 茂樹      |       |  |
|                     | + M.J.マクドナルド   | + F.M.キッシュ |       |  |